





### 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

#### 7. 小梁、片持梁

(1) 定着

(2) 片持スラブの補強

(3) 片持スラブ出隅部補強

(4) 片持スラブ出隅部補強

(5) 片持スラブ出隅部補強

(6) 片持スラブ出隅部補強

(7) 片持スラブ出隅部補強

(8) 片持スラブ出隅部補強

#### 8. 床版

(1) 定着および継手

(2) 変換スラブの補強

(3) 片持スラブ定着及び出隅部補強

(4) 片持スラブ出隅部補強

(5) 片持スラブ出隅部補強

(6) 片持スラブ出隅部補強

(7) 片持スラブ出隅部補強

(8) 片持スラブ出隅部補強

#### 9. 壁

(1) 定着

(2) スリット部

(3) 手摺、パラペット

(4) コンクリートブロック積壁

(5) 新築建物の網入り壁

#### 10. 柱、梁増打コンクリート補強

(1) 柱

(2) 梁

1.1 梁貫通孔補強

### QLルーフ屋根設計・施工標準 JFE 建材株式会社

QLルーフを屋根に用いた場合の設計・施工は、(一社)日本建築協会「デッキプレート屋根設計・施工標準 2018」、  
鉄骨品カタログ、QLデッキ設計マニュアル、同梱マニュアルによる。

#### 1. 材料/デッキプレート

商品名	デッキプレート種類	表面処理	材質
QL9-9-50	□QL99-50-12Y	●新鋭めっき (●D12 □Z27)	JIS G 3552
QL9-9-75	□QL99-50-16Y	□E138 * (□Y18 □Y27)	SP50
	□QL99-75-12Y	□その他	
	□QL99-75-16Y		

#### 2. QLルーフと梁(母屋)との接合

接合部	中間部	接合仕様	接合条件
●	●	換気きり溶接 (φ10以上)	梁(母屋)幅厚 (L) ≥ 6mm
○	○	打込み継	
□	□	ドリルねじ (φ6×L19以上)	2.3mm ≤ 梁(母屋)幅厚 (L) < 6mm
◇	◇	その他	

#### 3. 屋根システム耐火仕様

デッキ品名	屋根形式	支持スパン	認定番号	種別 (デッキ系)	適合 (デッキ系)
QL99-50-12Y	単接支持	2.800m 以下	CFP009F-0307	□ドリルねじ	□デッキ系
QL99-50-16Y	単接支持	3.400m 以下	CFP009F-0413	□デッキ系	□デッキ系
QL99-75-12Y	単接支持	3.400m 以下	●P009F-0328	●打込み継	●打込み継
QL99-75-16Y	単接支持	4.550m 以下	●P009F-0326	●打込み継	●打込み継
QL99-50-12Y	単接支持	2.800m 以下	□FP009F-0064	□ドリルねじ	□デッキ系
QL99-50-16Y	単接支持	2.800m 以下		□ドリルねじ	□デッキ系
QL99-75-12Y	単接支持	2.800m 以下		□ドリルねじ	□デッキ系
QL99-75-16Y	単接支持	3.900m 以下		□ドリルねじ	□デッキ系
QL99-75-16Y	単接支持	4.500m 以下		□ドリルねじ	□デッキ系

#### 4. デッキ相互の接合

1. ドリルねじ	2. クギ	3. スボット溶接	4. ずり内溶接

#### 5. アクセサリー

フラッシング	クローラー	天吊り	天吊り

#### 標準納まり

#### ソーラー架台基礎

#### 開口部補強

#### 施工

施工順序

数込み

換気きり溶接

打込み継

ドリルねじ

換気きり溶接

【打込み継】

デッキと梁(母屋)との接合

換気きり溶接

打込み継

ドリルねじ

換気きり溶接

【打込み継】

検査

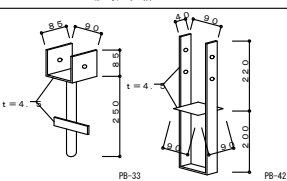
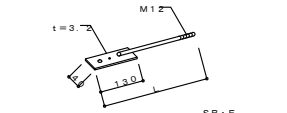
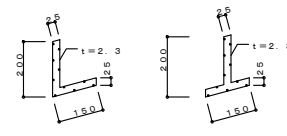
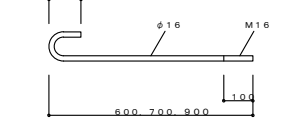
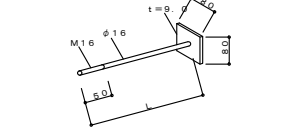
換気きり溶接

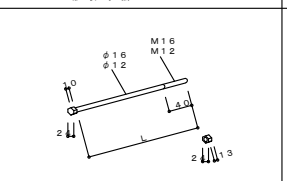
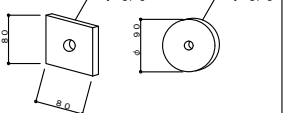
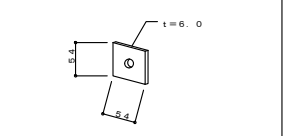
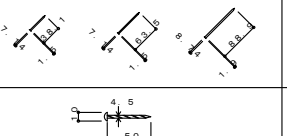
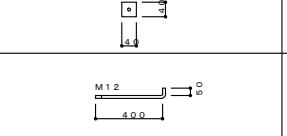
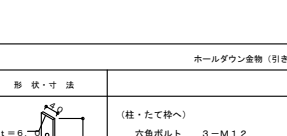
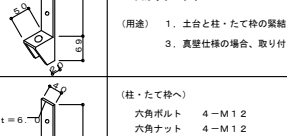
【打込み継】

道の駅発酵の里こうざき新発酵市場棟新築工事	
工事種目	レストラン増改築等工事
図面種別	構造仕様書-3
図面番号	S-03
縮尺	NON 内容表示
令和8年度	
設計者	神崎町役場まちづくり課



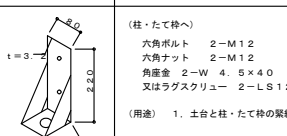
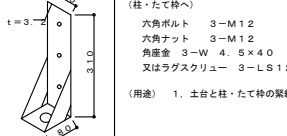
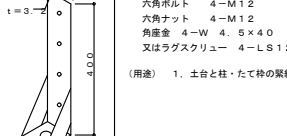
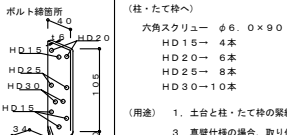
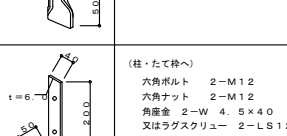
軸組工法用金物規格図 ※Zマーク、Dマーク、Sマーク表示金物又はメーカー同等品の使用は可能とする。

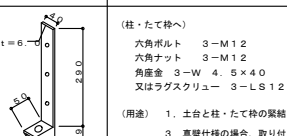
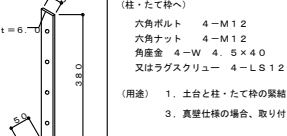
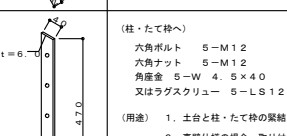
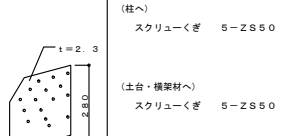
使用の 種類・記号	形状・寸法	使用接合具	用途
● 柱脚金物 PB-33 PB-42		六角ボルト 2-M12 六角ナット 2-M12 又は 金ねじボルト M12×115 六角緩ナット M12	支間の独立柱等の柱脚
● 羽子板ボルト SB-E		六角ボルト M12 六角ナット M12 角 座 金 W 4.5×4.0 スクリーク ZSS0	小屋ばりと軒けた、軒けたと柱、はり及び断差と通し柱の連結
● かど金物 CP-L CP-T		太めくぎ ZN65	引張りをつける柱の上下の接合
● アンカーボルト A-60 A-70 A-90		基礎と土台の架結 角 座 金 W 9.0×8.0 又は 丸 座 金 RW 9.0×9.0を併用	
○ 座金付きボルト M16W			土台と柱・たて枠との架結に引き寄せ金物を使用する時に併用

使用の 種類・記号	形状・寸法	使用接合具	用途
● 六角ボルト M16 M12 六角ナット M16 M12			柱・たて枠相互の架結に引き寄せ金物を使用する時に併用
● 角 座 金 W9.0×8.0 丸 座 金 RW9.0×9.0			アンカーボルト (A-60, A-70) に併用
● 角 座 金 W6.0×5.4			引き寄せ金物 (HD-B, HD-N) に併用
● 太めくぎ ZN40 ZN65 ZN90		六角ボルト M12 六角ナット M12	L (mm) 110, 125, 140, 150, 165 180, 195, 210, 225, 240, 255 270, 285, 300, 315, 330, 345 360, 375, 390, 405, 420, 435 450, 465, 510, 540, 570, 600
● スクリューくぎ ZSS0		金ねじボルト M12×115 六角緩ボルト M12	
● 角 座 金 W4.5×4.0		かすがい C120 C150	
● アンカーボルト A		手違いかすがい CC120 CC150 (石ひねり及び 差ひねり)	

(注) 平くぎ、角根平頭ボルト及び小型角 座 金は、それぞれ特定の接合金物に付属する専用の接合具で、前記金物の表中に記載されているとおりである。

ホールダウン金物規格図 ※Zマーク、Dマーク、Sマーク表示金物又はメーカー同等品の使用は可能とする。

使用の 種類・記号	形状・寸法	使用接合具	用途
○ HD-B10		(柱・たて枠へ) 六角ボルト 2-M12 六角ナット 2-M12 角 座 金 2-W 4.5×4.0 又はラグスクリュー 2-LS12 (土台へ) 座金付きボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16 角 座 金 1-W 6.0×5.4 (柱・たて枠相互の架結の金物相互は) 六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16 角 座 金 2-W 6.0×5.4	(用途) 1. 土台と柱・たて枠の架結 2. 上下階の柱・たて枠相互の架結
○ HD-B15		(柱・たて枠へ) 六角ボルト 3-M12 六角ナット 3-M12 角 座 金 3-W 4.5×4.0 又はラグスクリュー 3-LS12 (土台へ) 座金付きボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16 角 座 金 1-W 6.0×5.4 (柱・たて枠相互の架結の金物相互は) 六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16 角 座 金 2-W 6.0×5.4	(用途) 1. 土台と柱・たて枠の架結 2. 上下階の柱・たて枠相互の架結
○ HD-B20		(柱・たて枠へ) 六角ボルト 4-M12 六角ナット 4-M12 角 座 金 4-W 4.5×4.0 又はラグスクリュー 4-LS12 (土台へ) 座金付きボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16 角 座 金 1-W 6.0×5.4 (柱・たて枠相互の架結の金物相互は) 六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16 角 座 金 2-W 6.0×5.4	(用途) 1. 土台と柱・たて枠の架結 2. 上下階の柱・たて枠相互の架結
● F-HD15 F-HD20 F-HD25 F-HD30		(柱・たて枠へ) 六角スクリュー φ6.0×90 HD15→4本 HD20→6本 HD25→8本 HD30→10本 (土台へ) 座金付きボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16 (柱・たて枠相互の架結の金物相互は) 六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16	(用途) 1. 土台と柱・たて枠の架結 2. 上下階の柱・たて枠相互の架結 3. 真壁仕様の場合、取り付ける幅が狭い時
● S-HD10		(柱・たて枠へ) 六角ボルト 2-M12 六角ナット 2-M12 角 座 金 2-W 4.5×4.0 又はラグスクリュー 2-LS12 (土台へ) 座金付きボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16 (柱・たて枠相互の架結の金物相互は) 六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16	(用途) 1. 土台と柱・たて枠の架結 2. 上下階の柱・たて枠相互の架結 3. 真壁仕様の場合、取り付ける幅が狭い時

使用の 種類・記号	形状・寸法	使用接合具	用途
● S-HD15		(柱・たて枠へ) 六角ボルト 3-M12 六角ナット 3-M12 角 座 金 3-W 4.5×4.0 又はラグスクリュー 3-LS12 (土台へ) 座金付きボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16 (柱・たて枠相互の架結の金物相互は) 六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16	(用途) 1. 土台と柱・たて枠の架結 2. 上下階の柱・たて枠相互の架結 3. 真壁仕様の場合、取り付ける幅が狭い時
● S-HD20		(柱・たて枠へ) 六角ボルト 4-M12 六角ナット 4-M12 角 座 金 4-W 4.5×4.0 又はラグスクリュー 4-LS12 (土台へ) 座金付きボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16 (柱・たて枠相互の架結の金物相互は) 六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16	(用途) 1. 土台と柱・たて枠の架結 2. 上下階の柱・たて枠相互の架結 3. 真壁仕様の場合、取り付ける幅が狭い時
● S-HD25		(柱・たて枠へ) 六角ボルト 5-M12 六角ナット 5-M12 角 座 金 5-W 4.5×4.0 又はラグスクリュー 5-LS12 (土台へ) 座金付きボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16 (柱・たて枠相互の架結の金物相互は) 六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16	(用途) 1. 土台と柱・たて枠の架結 2. 上下階の柱・たて枠相互の架結 3. 真壁仕様の場合、取り付ける幅が狭い時
● BP-2		(柱へ) スクリューくぎ 5-ZSS0 (土台・構架材へ) スクリューくぎ 5-ZSS0 (筋かい(45×90mm)の柱、土台・構架材への架結)	(筋かいへ) スクリューくぎ 7-ZSS0 角根平頭ボルト 1-M12 六角ナット 1-M12 小型角 座 金 1-W 2.3×3.0

道の駅発酵の里こうざき新発酵市場棟新築改築工事

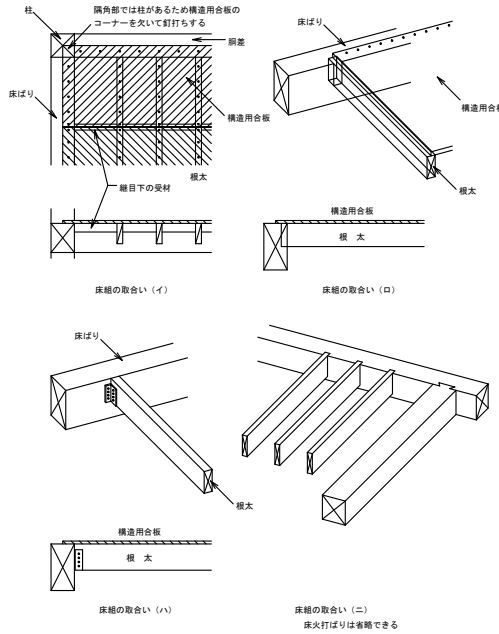
工事種目	レストラン棟増改築等工事
図面種別	構造仕様書-5
図面番号	S-05
縮 尺	NON 内容表示
令和8年度	
設 計 者	神崎町役場まちづくり課

床組標準詳細図

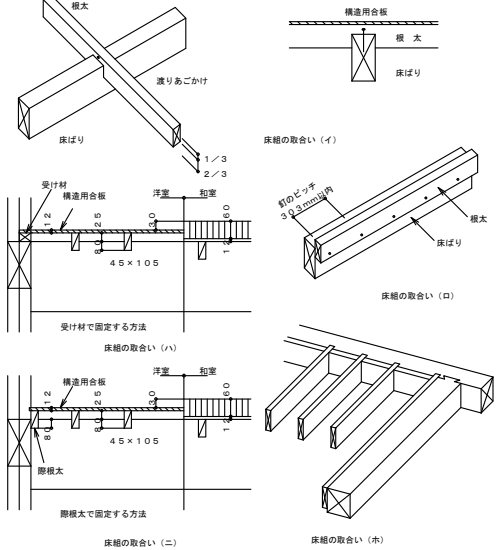
(1) 床組 1 (2階・3階床) (剛な床組…その1)

- 水平構面の剛性が十分期待できる床の施工 (剛な床組)
  - (床の剛性は耐力壁等に囲まれた構面を単位に考える)
  - 次のイ、ロ、ハ、ニを満足すること
  - イ、床下地板は構造用合板12mm以上を使用し、合板の四辺は床ばり、脚差又は受け材等に固定する。
  - ロ、断面寸法105mm×105mm以上の床ばりを1820mm内外の間隔にはり置き方向又ははり方向に配置する。
  - ハ、床太と床ばり、脚差の上端高さが同じ場合の施工方法
    - 床太は床ばり、脚差に大入れ落しこみ釘2N75を斜め打ちとするか、又は床太受け金物等を用いて床ばり、脚差に留めつける。この場合構造用合板を床ばり、脚差に釘で直ばりすることが重要である。ただし、隅角部では柱があるため構造用合板のコーナーを欠いて釘打ちする。
  - ニ、床太と床ばり、脚差の上端高さが異なる場合の施工方法
    - 床ばり、脚差に直行する床太は渡りあかけとし釘2N75を斜め打ちとする。また、床ばり、脚差の際に脚差太又は受け材を添えつけ床板構造用合板の四辺を固定する。脚差太、床ばり、脚差へN90釘打ち間隔303mmで平打ちする。

剛な床組詳細図



剛な床組詳細図

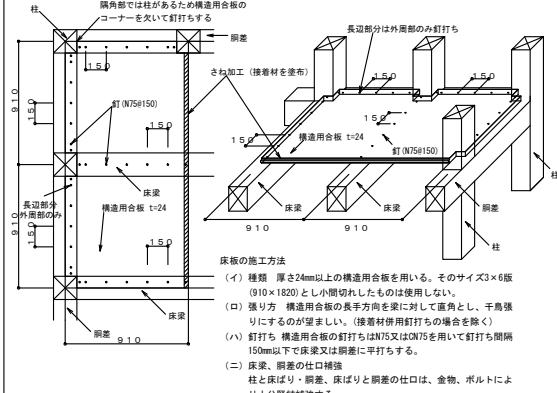


- 床板又は床下地板の施工方法
- 種類 厚さ12mm以上の構造用合板を用いる。そのサイズ3×6版とし小断切したものを使用しない。
  - 張り方 構造用合板の長手方向を床太と直交させかつ、千鳥張りとする。構造用合板の継手は床太上で突きつけ継ぎとし継目下に受材(4.5cm×4.5cm)を設ける。
  - 釘打ち 構造用合板の釘打ちはN50を用いて釘打ち間隔150mm以下で床太又は床ばり、脚差、受け材等に平打ちする。
  - 床太の寸法は45×105mmを標準とし、その継目間隔は455mm以下とする。ただし、床ばり間隔は1820mm以下とする。
  - 床ばり、脚差の仕口補強 柱と床ばり・脚差、床ばりと脚差の仕口は、金物、ボルトにより十分緊結補強する。

(2) 床組 2 (2階・3階床) (剛な床組…その2)

- 床太を用いず、直接、床下地板を床太又は脚差に留め付ける場合は次による。(床の剛性は耐力壁等に囲まれた構面を単位に考える)
- 次のイ、ロ、ハ、ニを満足すること
- イ、下地板の品質は、合板のJASに適合する構造用合板で、厚さは24mm以上とする。
- ロ、下地板は、その四辺部を床太又は脚差に直接留め付ける。N75釘を用い、間隔150mm以下で平打ちして固定する。
- ハ、床下地板にさね加工を施した構造用合板を用いる場合は、床太又は脚差に、構造用合板の外周部分各1列、その間に1列以上になるように、N75釘を用いて150mm以下の間隔で平打ちして固定する。
- ニ、断面寸法105mm×105mm以上の床太を910mm内外の間隔に並行方向又は相行方向に配置する。

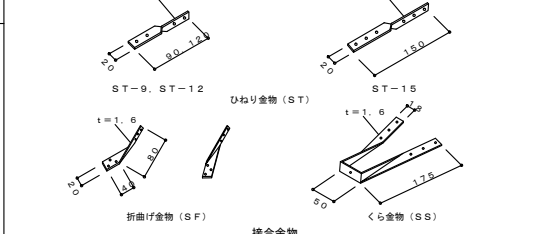
剛な床組詳細図 (さね加工を施した合板)



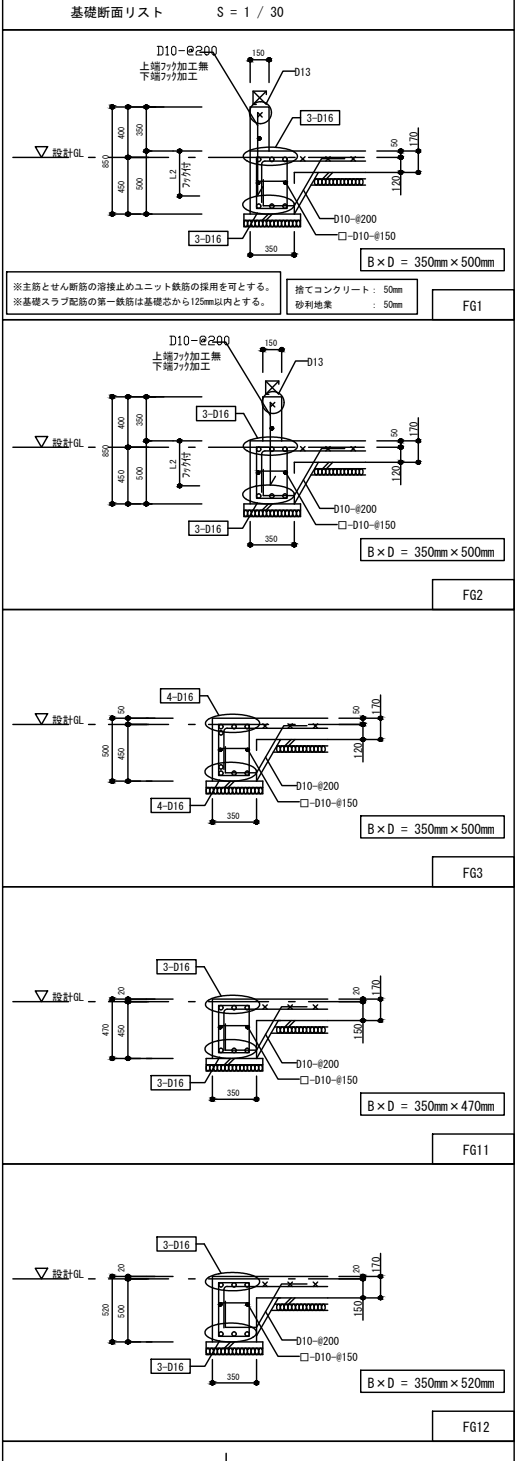
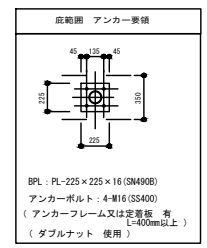
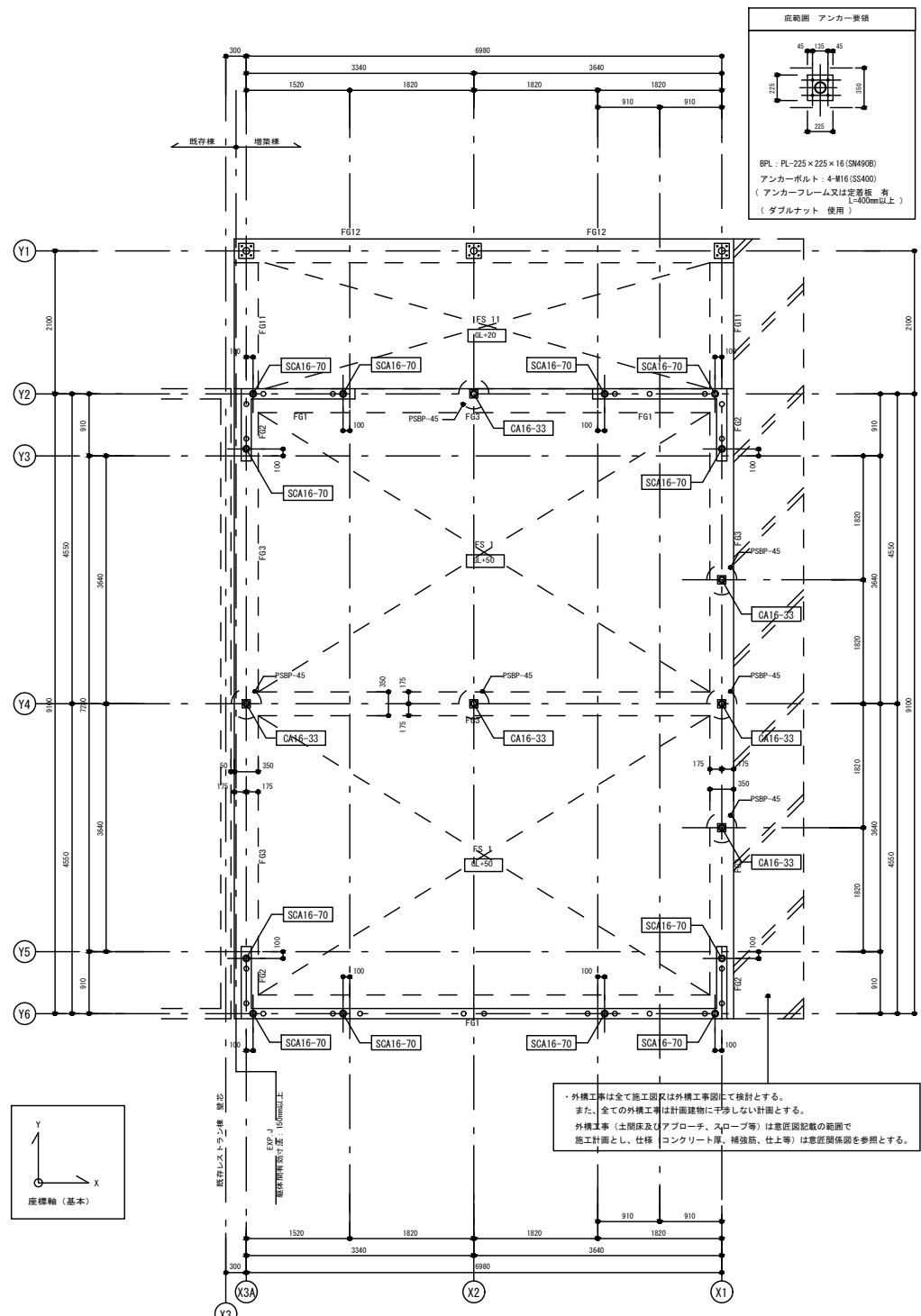
(3) 屋根・小屋組の耐風対策

- 屋根面や軒先及びけらばの部分には大きな吹上げ力がかかる。特に軽い屋根で勾配がゆるい場合はその値は大きくなる。小屋組は水平構面の剛性を高めるため、風に抵抗するために全体の一体化が必要である。
- 以下小屋組の各部について述べる。
  - 小屋火打ちばり
    - 火打ちばりは耐力壁等に囲まれた隅角部には必ず挿入する。
    - 小屋筋かい及び軒筋かいは、隠れ止め小屋組の一体化を図るために、小屋架相互及びはり、桁にまたがり筋かい15×90mm以上、釘(2-N50)にて固定する。
  - 軒
    - 軒先部は吹上げが大きくなるので、タルキと軒桁はくら金物等で緊結する。
  - タルキ
    - 軒先や、妻側又は棟部のタルキは吹上げが大きく働くので床太及び脚差への緊結方法を考慮する。例としてそれぞれくら金物等に緊結する。
  - 床太と第2層架も吹上げ力が大きくなるので小屋架に十分注意して留付ける。
  - 小屋架
    - 小屋架下部と小屋ばりあるいは架はり桁との留付けも同様に十分注意して留付ける。

接合金物詳細図 (Zマーク表示金物)



道の駅発酵の里こうざき新発酵市場棟新築工事			
工事種目	レストラン棟増改築等工事		
図面種別	構造仕様書-6		
図面番号	S-06		
縮尺	NON	内容表示	
令和8年度			
設計者	神崎町役場まちづくり課		



特記なき基礎スラブは全て FS1 とする。  
 特記なき外部部基礎梁は全て FG1 とする。  
 特記なき内部基礎梁は全て FG2 とする。

**基礎伏図 共通事項**

**共通事項**  
 特記なき限り構造詳細部は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算基準・解説」及び「建築工事標準仕様書・解説 JASS5 (2018)」による。  
 鉄筋コンクリート工事：「鉄筋コンクリート造筋配筋設計」による。  
 ※混和剤及び使用骨材についてはコンクリートプラント決定後に報告とする。  
 ※上記の設計強度を確保可能な配合を工事監督者の指示により行う。

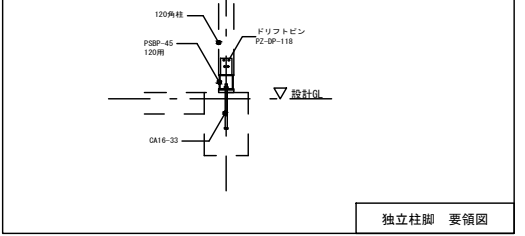
**一般事項**  
 ※調合管理強度  $F_{mi}$  は JASS5 (2018) より  $F_c + m \cdot s_n$  を考慮して算出とする。  
 使用材料 コンクリート：設計基準強度  $F_c = 24 \text{ N/mm}^2$ 、品質基準強度  $F_a = 18 \text{ N/mm}^2$ 、スラブ厚比最大値 55% 以下、単位体積重量最小値 270 kg/m<sup>3</sup>。  
 鉄筋：S3295A (D10-D16) ... 採用なし、S3345 (D19 以上) ... 採用なし。  
 基礎形式：ベタ基礎 (地盤補強改良計画有・無・未定)  
 設計長期地耐力： $f_e = 30.0 \text{ kN/m}^2$  (基礎下端：GL - 0.45m, 0.12m)  
 支持層：粘性土層 (基礎下端)  
 ※計画範囲の地盤調査報告書から、地盤改良 (D-BOX工法) を採用して設計長期地耐力を確保とする。  
 工事監督者は、地盤改良検討書及び地盤改良計画書を承認する。  
 その他現場状況で基礎条件の確保が困難な状況が生じた場合は、地盤補強の再検討を行い審査機関等に対して、軽微報告又は計画変更等の手続きを遅延なく実施とする。

**アンカーボルト**  
 アンカーボルト M12 (FOA II-40) 又は M12 (UHA-40) (同等品の使用は可とする)  
 ホールダウンアンカー M16 (SCA16-70 又は CA16-80) (同等品の使用は可とする)  
 特殊ホールダウンアンカー PZ-FA16-93 を示す。  
 部分は無筋立上りを示す。  
 床下換気口 (内部) ... 採用なし、350 (H) x 450 x 450 (W) を示す。

**基礎-土台架組用アンカーボルトについて**  
 アンカーボルト配置は「2.0m以内」とする。  
 耐力壁両端部位置の「150mm以内」に配置する。  
 土台継手相互端部に配置する。  
 土台端部に配置する。  
 構造計算により応力伝達に必要な本数を配置する。

**一般又はHD用フカギの仕様及び基礎埋込長制限**  
 A-40 (M12 Zマーク) → 250mm以上  
 A-70 (M16 Zマーク) → 360mm以上  
 A-90 (M16 Zマーク) → 510mm以上  
 コシフカギ M16 (特許) → 240mm以上  
 ショットガンフカギ M16 (特許) → 280mm以上  
 高耐久フルフカギ M16 (特許) → 300mm以上 (PZ-FA16-93)

**アンカーボルト及びホールダウン用アンカー設置では各メーカーの専用支持治具を必ず採用し精度と所定の埋込長を確保とする。**

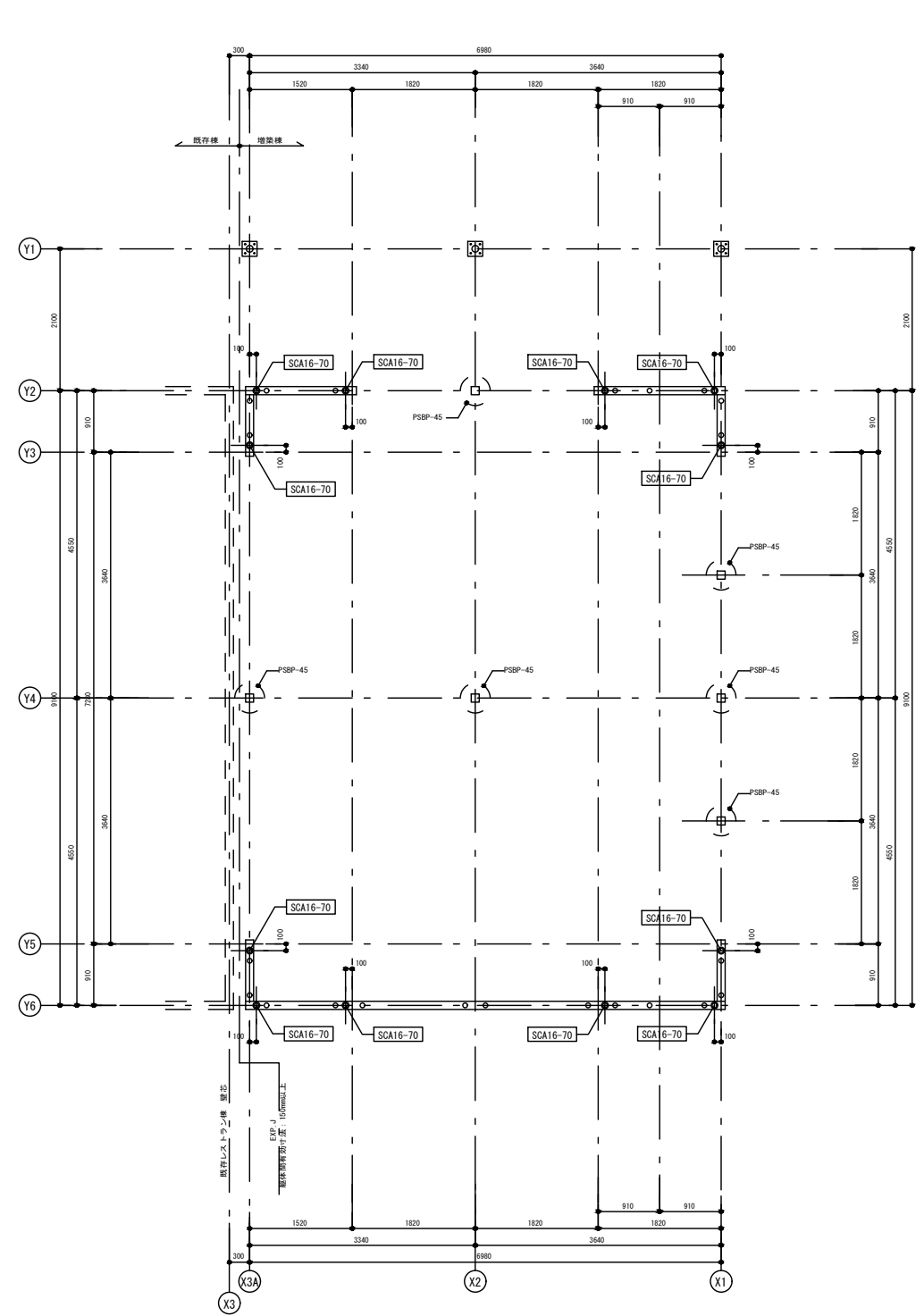


**基礎スラブリスト**

符号	版厚	位置	短辺方向 (主筋)	長辺方向 (配筋)
FS1 (耐圧スラブ)	t = 170	上層筋	D16 - #150	D16 - #150
		下層筋		
FS11 (耐圧スラブ)	t = 170	上層筋	D13 - #150	D13 - #150
		下層筋		

※基礎スラブ筋 (シグマ配筋) は、短辺方向配筋を主筋 (上段に配筋) とする。  
 ※基礎スラブ筋 (デルタ配筋) は、短辺方向配筋を主筋 (外側に配筋) とする。  
 ※かぶり厚さ及び折曲加工、定着については、鉄筋コンクリート造筋配筋設計に準ずる。

※工事監督者が適切なかぶり厚を十分に管理出来る場合は、捨てコンクリート地盤施工のみを省略可能な対象とする。但し、変更申請又は報告等は審査機関等に対して事前に行うこと。



**土台伏図 共通事項**

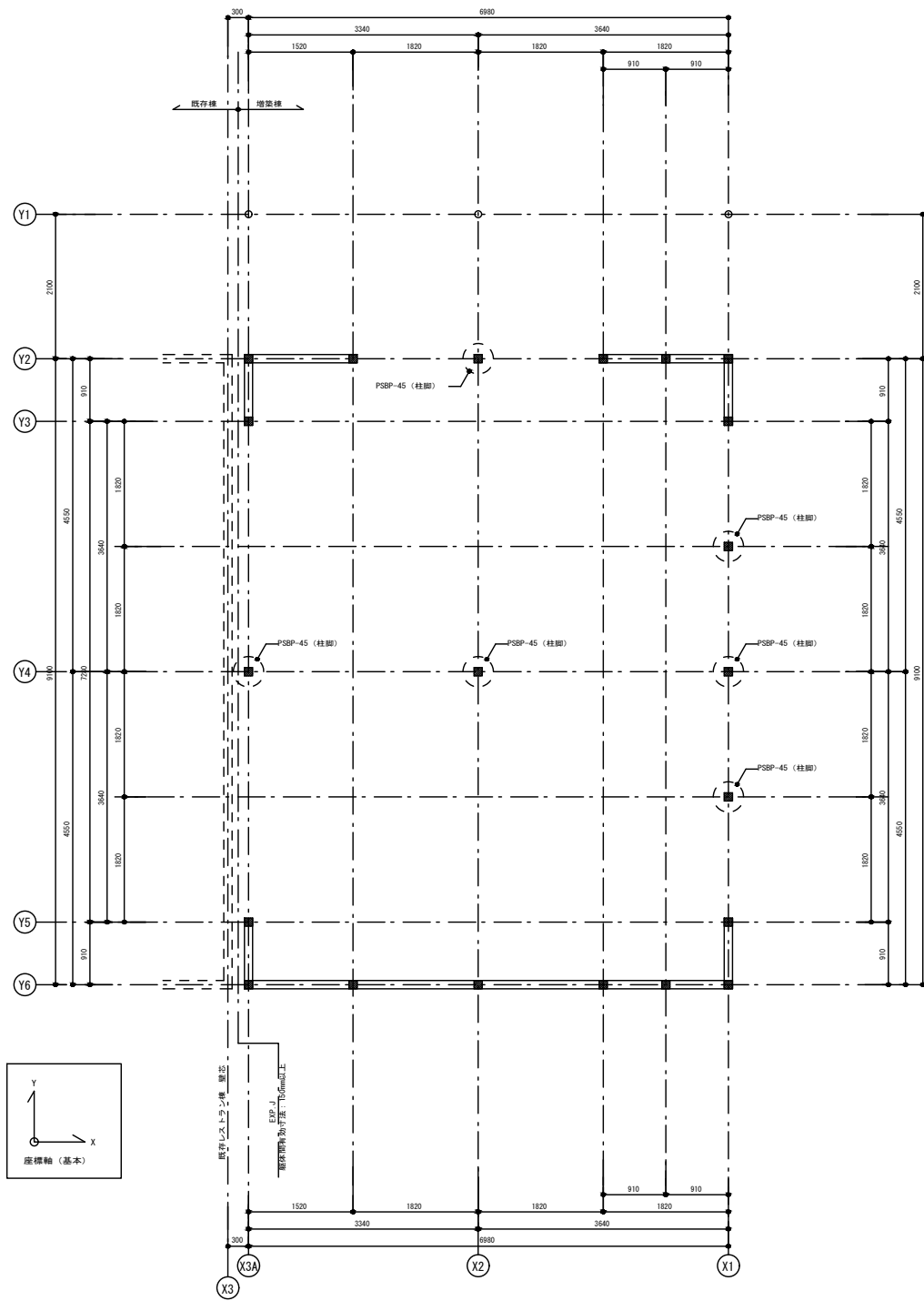
土台：120 x 120 (根 防腐材塗布)  
 大引：105 x 105 (根 防腐材塗布)  
 床合板：90 x 90 (根 KD 防腐加工材) (合板受根太：大入落込み、少引材又は金物止めとする。)  
 東位置 (金で鋼製束又はプラ束) を示す。  
 大引受金物 を示す。

一般又はHD用フカギの仕様及び基礎埋込長制限  
 A-40 (M12 Zマーク) → 250mm以上  
 A-70 (M16 Zマーク) → 360mm以上  
 A-90 (M16 Zマーク) → 510mm以上  
 コシフカギ M16 (特許) → 240mm以上  
 ショットガンフカギ M16 (特許) → 280mm以上  
 高耐久フルフカギ M16 (特許) → 300mm以上 (PZ-FA16-93)

基礎-土台架組用アンカーボルトについて  
 アンカーボルト配置は「2.0m以内」とする。  
 耐力壁両端部位置の「150mm以内」に配置する。  
 土台継手相互端部に配置する。  
 土台端部に配置する。  
 構造計算により応力伝達に必要な本数を配置する。

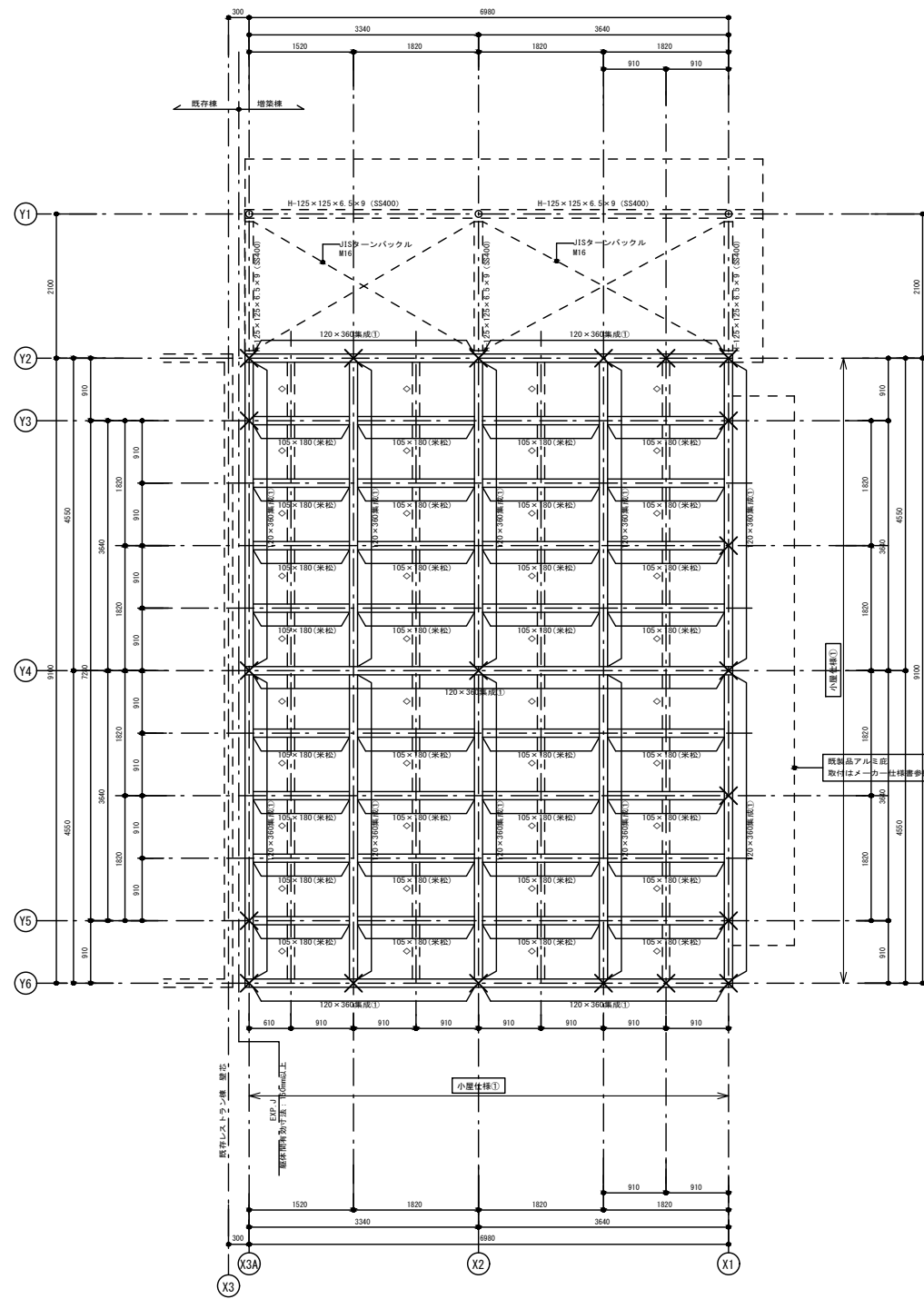
土台継手位置を示す。  
 監理者がプレカット図を確認して現場指示する。  
 縦筋、横筋のいずれか又は双方にアンカー設置する。

道の駅発祥の里こうざき新発群市場棟新築工事	
工事種目	レストラン棟増改築等工事
図面種別	レストラン棟 基礎伏図、基礎部材リスト、土台伏図
図面番号	S-07
縮尺	図示 内容表示
令和8年度	
設計者	神崎町役場まちづくり課



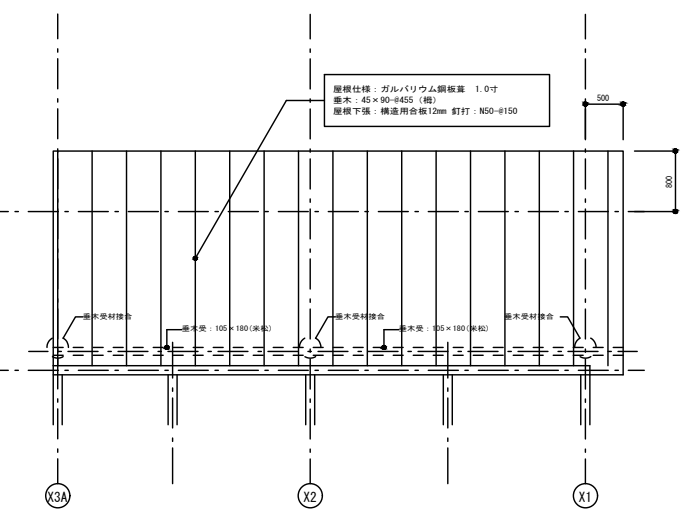
1階 床伏図 S = 1/50

1階計画 設計考慮積載荷重  
L.L (店舗) 2900 - 2400 - 1300 N/m<sup>2</sup>



小屋 伏図 S = 1/50

屋根計画 設計考慮積載荷重  
L.L (歩行×1/2) 1000 - 700 - 300 N/m<sup>2</sup>

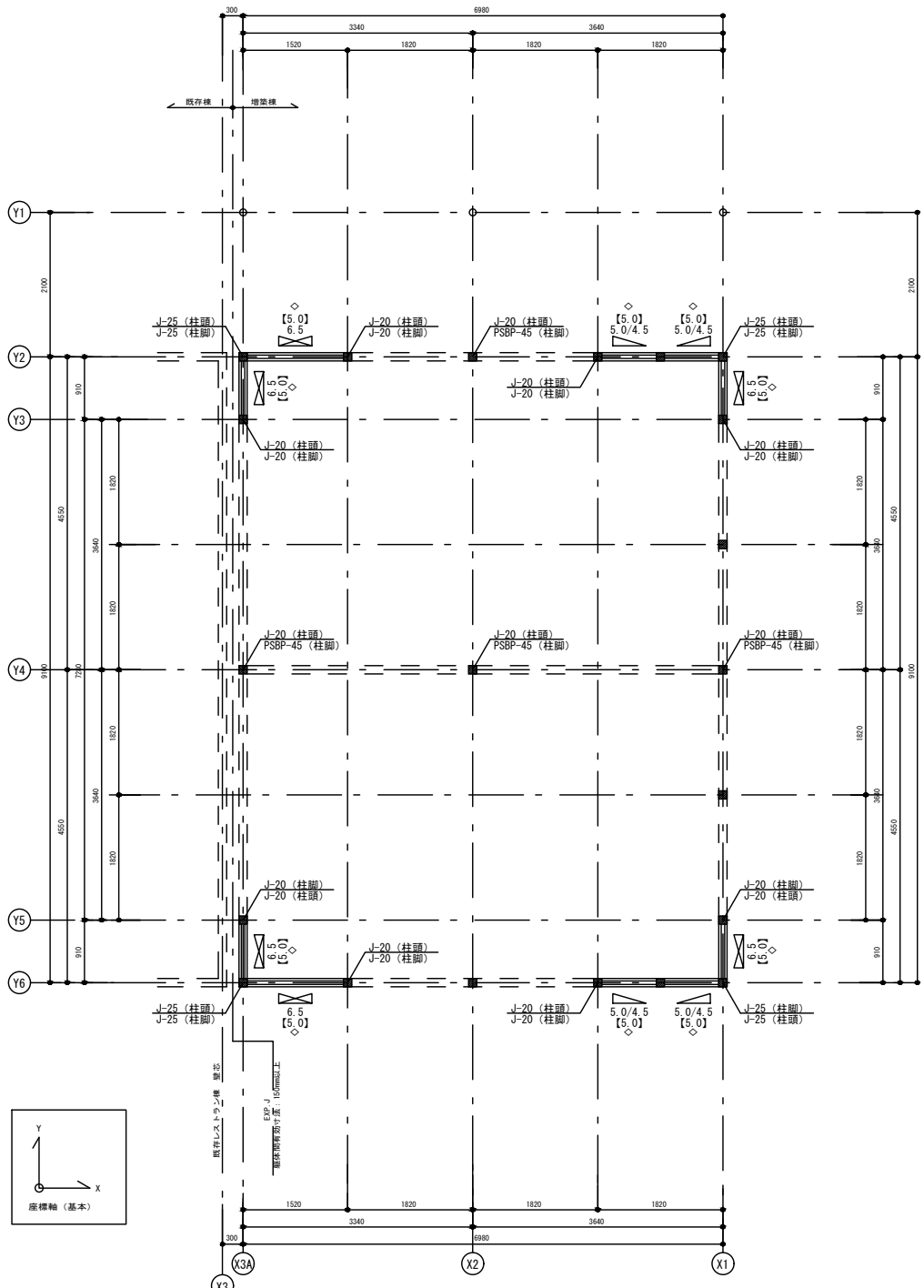


底範囲 屋根 伏図 S = 1/50

1階 床伏図 共通事項	
<p>特記なき 1階柱 ■ : 外周部 120 × 120 (桧集成材 E95-F315)            ■ : 内部 120 × 120 (桧集成材 E95-F315)            (柱ほぞ寸法 30mm × 90mm以下)</p>	
<p>土台 : 120 × 120 (桧 防腐材塗布)</p>	
<p>大引 : 105 × 105 (桧 防腐材塗布)</p>	
<p>梁材は、全て鋼製梁又はFRP梁の採用とする。</p>	
<p>※床下柱は、構造用合板24.0mm (N75-#150) とする。</p>	
<p>※土台と大引レベルが同一の為、火打材を省略可能とする。</p>	
<p>※地盤面から1.0m範囲の構造部材(含板を含む)において防蟻・防腐処理を行う事とする。</p>	

小屋 伏図 共通事項	
<p>庇 垂木 (コロピ止めなし) : 1.0寸 45 × 90 - #455 (桧)            垂木受 : 105 × 180 (米松 KD)</p>	
<p>特記なき外周部 梁・脚差 : 120 × 120 (米松)            特記なき内部 梁・脚差 : 120 × 120 (米松)</p>	
<p>◇ - 90 × 90 - #910以下 (桧 KD)            (合板屋根太: 大入落込み + 2-N75 又は 金物止めとする。)</p>	
<p>外周構架材端部接合方法 (各層共通: T=15.9 kN)            ① 腰掛け蟻+短冊金物×2箇所 (継手)            ② 大入れ蟻掛け+羽子板*1×2箇所 (仕口)            ③ 大入れ蟻掛け+短冊金物×2箇所 (仕口)            のいずれかとする。</p>	
<p>特記なき限り材料仕様は下記による。            ※構造用 製材 → 全て無等級材            ※梁 集成材① → 対称異等級: E120-F330 (米松集成)            集成材② → 対称異等級: E105-F300 (赤松集成) ... 採用なし            特殊集成 → LVL 140E (90B 55V-4TH 以上) ... 採用なし            ※柱 集成材 → 1階 管柱 同一等級: E95-F315 (桧 集成)            ※プレカット工程において、設計採用した材種より基準強度及びその他性能が下回らないことを工事監理者が確認し承認した場合は、材種変更を可能とする。但し、審査機関に対して「発報報告」を適宜実施する。</p>	
<p>小屋 仕様① (∠θ = 7.84 kN/m)            構造用合板 24.0mm合板 (4周釘打) 短辺: N75 - #150            長辺: N75 - #150</p>	
<p>小屋 仕様② (∠θ = 1.18 kN/m)            火打ち材 2.50m以下配置            周辺梁: 105mm × 150mm以上 (∠θ = 1.18 kN/m)</p>	
<p>小屋 仕様③ (∠θ = 0.71 kN/m)            火打ち材 3.75m以下配置            周辺梁: 105mm × 150mm以上 (∠θ = 0.71 kN/m)</p>	

道の駅発酵の里こうざき新発酵市場棟新築工事	
工事種目	レストラン棟増改築等工事
図面種別	レストラン棟 1階床伏図、小屋伏図、屋根伏図
図面番号	S-08
縮尺	1/50 内容表示
令和8年度	
設計者	神崎町役場まちづくり課



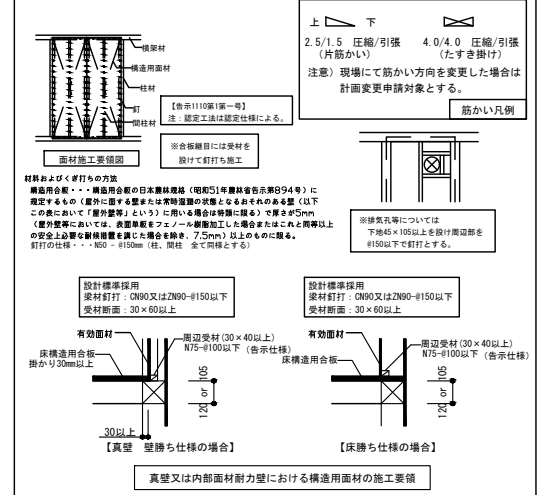
1階 壁仕様・金物配置図 S = 1/50  
【1階 柱脚部 及び 柱頭部】

※柱位置表示が意匠図と異なる場合は構造図を優先とする。

■	特記なき 1階 外部柱 : 120 × 120 材質: W鋼集成材 E95-F315
■	特記なき 1階 内部柱 : 120 × 120 材質: W鋼集成材 E95-F315
1階 階高寸法: H = 2520 mm ( 構架間寸法: h = 2400 mm )	
1 階	H / Lo(910) = 2.77 < 3.5 (筋交), 5.0 (面材) . . . 可
1 階	H / Lo(700) = 3.60 < 5.0 (面材) . . . 可

各階 壁仕様・金物配置図 共通事項

採用記号	壁仕様	内装	備考
①	2.5倍 構造用合板 2級 9.0mm 片面施工	外周 N50-#150 中塗り N50-#150	告示1100号第一・三号
②	2.0倍 構造用合板 2級 9.0mm 片面施工	外周 N50-#150 中塗り N50-#150	告示1100号第一・三号
③	2.5/1.5倍 構造用合板 2級 9.0mm 両面施工	外周 N50-#150 中塗り N50-#150	告示1100号第一・三号
④	4.0倍 構造用合板 2級 9.0mm 両面施工	外周 N50-#150 中塗り N50-#150	告示1100号第一・三号
⑤	5.0倍 構造用合板 2級 9.0mm 両面施工	外周 N50-#150 中塗り N50-#150	告示1100号第一・三号
⑥	2.5倍 + 2.5/1.5倍 の組合せ	【 】 数値は、令46条検討値とする。	
⑦	6.5倍 (5.0倍)	2.5倍 + 4.0倍 の組合せ 【 】 数値は、令46条検討値とする。	
⑧	2.9倍 構造用パネル ノボパン 9.0mm 大壁片面施工	外周 N50-#100 中塗り N50-#200	認定番号: FM - 0177-1
⑨	2.0倍 構造用パネル ノボパン 9.0mm 大壁片面施工	外周 N50-#100 中塗り N50-#200	認定番号: FM - 0242-1
⑩	2.6倍 構造用パネル ノボパン 9.0mm 大壁片面施工	外周 N50-#100 中塗り N50-#200	認定番号: FM - 0179-1
—	非耐力壁 構造用合板(針葉樹)2級 9.0mm N50-#200 (外部のみ)		
—	壁型・壁型 構造用合板(針葉樹)2級 9.0mm N50-#200 (外部のみ)		



金物仕様一覧
J-10 → 短期引張耐力 10kN用 ⇒ HC 又は HS10-G 耐力同等品
J-15 → 短期引張耐力 15kN用 ⇒ HC15-G 耐力同等品
J-20 → 短期引張耐力 20kN用 ⇒ U-20 又は 耐力同等品
J-25 → 短期引張耐力 25kN用 ⇒ U-25 又は 耐力同等品
J-35 → 短期引張耐力 35kN用 ⇒ U-35 又は 耐力同等品
U-15 ~ 35: ビス止めホルダウタイプを示す。(同等品可)
HC → HC10-3ナ、HS10-G → HC10-3ナ板用材φを示す。(同等品可)
J-60 → 短期引張耐力 60kN用 ⇒ 高耐力プレットφ60 (3ナ)

特記なき全ての構造柱材の上下は、J-10 (同等品) にて繋結する。

1階脚部の引張金物 (J-20~35のみ) は、ホルダウ金物以外のプレートビス止めタイプの採用は不可とする。(J-10、J-15を除く)

柱頭及び柱脚部の引張金物にプレートビス止めタイプ (J-15、J-20のみ) を採用する場合で「合板」に使用する場合は、取付ビスが長いため受材側に対して「部材せい120mm以上」であることを確認する。(J-10を除く)

- 使用金物は全てZマーク表示金物又はZマーク、Sマーク金物認定品を使用する。床合板24~28mm上に引張取付施工する場合は、各メーカーの専用金物とする。
- 特記なき耐力壁間壁柱上下の接合部は J-10 同等品を使用する。(適任の中間梁接合部は断面欠損が大きい為仕様を補強する。)
- ホルダウ金物の納り高さについては、現場管理者と相談の上決定する。
- 同位置に引張金物を「2方向」に取付する納まりは「採用不可」とする。
- 管柱を通じた場合は、伏図内金物を省略とする。
- ホルダウ金物用ボルトと脚部土台プレートが干渉する場合は、金物用ボルトの位置を現場調整して耐震ケーブル等で施工とする。調整位置寸法は、現場管理者と相談の上決定する。

※一部上下取付金物サイズ(耐力)が異なる部位は現場施工時に注意する事。

耐力壁に使用する構造用合板(面材)に関して「構造耐力上同等品」を工事監理者が確認可能な場合は、その他の面材に変更を可能とする。但し、同等品以外の面材仕様を採用する場合は、壁倍率に影響することから壁量増減に関わらず、再計算検討を行い 計画変更申請 の対象とする。

⇒図面に表記された金物の耐力以上を工事監理者が確認の上承認した場合は、認定されたメーカー工法の採用を可能とする。採用する場合は、変更後の金物耐力比較表等工事監理者は、審査機関に対して軽微報告を行う。

使用部材一覧 在来工法構造仕様表

部位	在来仕様	※構造図に特記なき限り下記の仕様を参照とする。	部材	種類
土台	105 × 105、【120 × 120】	米松防炭・松	【 相 】	
通柱(階)	105 × 105、120 × 120	W鋼集成材 E95-F315		
管柱(階)	105 × 105、120 × 120	W鋼集成材 E95-F315		
管柱(1階)	105 × 105、【120 × 120】	W鋼集成材 E95-F315		
非耐力柱(造作)	105 × 105、120 × 120	杉 又は 相(KD)、その他		
バルコニー地束	105 × 105、120 × 120	杉 又は 相(KD)、その他		
鋼差桁材	105 × 105、【120 × 120】	米松 KD		
梁材 軒桁	105 × 【120】 × 成 集成材① 又は ② (標準L=3000~4000)	米松 集成材① E120-F330 赤松 集成材② E105-F300 特殊 集成材 LVL14E 特殊 . . . 採用なし		
小屋梁(墨木受)	【105 × 105】、90 × 90	【 杉(KD) 】・相(KD)		
母屋	105 × 105、90 × 90	米松(KD)・相(KD)		
棟木(立上頂部)	105 × 105、90 × 90	米松(KD)・相(KD)		
隅木	105 × 105、90 × 90	米松(KD)・相(KD)		
火打土台(採用なし)	鋼製金物(HB) 又は 90 × 90	鋼製 又は 相(KD)		
火打材(小屋)	【鋼製金物(HB) 又は 90 × 90】	鋼製 又は 相(KD)		
屋根束木	45 × 90 0.5寸 以上 (標準L=3000) 又は 45 × 60 寸 以上 (標準L=3000)	杉 又は 相(KD)・相(KD)		
破風板・鼻隠下地	30 × 105 以上	杉 又は 相(KD)		
中間柱 (柱頭柱)	【30 又は 45】 × 【105】、120	杉 又は 相(KD)		
間柱受材	45 × 【105】、120	杉 又は 相(KD)		
受材(削つなぎ)	60 × 【105】、120 以上	杉 又は 相(KD)		
雲筋か材	15 × 90 小屋内現場施工	杉 又は 相(KD)		
大引(採用なし)	90 × 90 (端部専用金物止め)	相材 (防炭加工材)		
大引束(採用なし)	鋼製束 又は プラ束	鋼製 又は プラ製品		
野縁・野縁受・吊木	40 × 30 以上	材種指定なし		
筋交い(内部壁)	45 × 90 以上 (標準L=3000)	杉 又は 相(KD)		
筋交い(外部壁)	45 × 90 以上 (標準L=3000)	杉 又は 相(KD)		
筋交い(内部壁)	90 × 90 【採用なし】	杉 又は 相(KD)		
根木材(階床)	105 × 105、90 × 90 ~ #91以下	相(KD)		
根木材(階床)	105 × 105、90 × 90 ~ #91以下	相(KD)		

部位	在来仕様	※構造図に特記なき限り下記の仕様を参照とする。	部材	種類
壁 面材(構造用合板)	【910 × 2730】・910 × 3030	針葉樹 特級 2級 床合板 L=9.0mm		
屋根下張合板	910 × 1820	針葉樹 1級 2級 床合板 L=12.0mm		
床合板(階)	910 × 1820	針葉樹 1級 2級 床合板 L=12.0mm		
床合板(屋根)	【 910 × 1820 】	針葉樹 1級 2級 床合板 L=12.0mm		
土台プレート(階脚部)	105 × 155 (Ae = 135.75cm <sup>2</sup> )	タナカ 土台プレートII (採用なし)		
土台プレート(階脚部)	120 × 170 (Ae = 177.00cm <sup>2</sup> )	タナカ 土台プレートII (採用なし)		
壁 面材(外部のみ)	【910 × 2730】・910 × 3030	認定番号: FM-0690		
	チヨダ材料センター 耐力壁 9.0mm	認定番号: FM-0690		
		認定番号: FM-0690		
		認定番号: FM-0690		

共通事項

- 鋼材と床根木レベルが同一の場合は、火打材の省略可能とする。
- ※床: 構造用合板「12.0、15.0mm」又は「24.0mm、28.0mm」により剛床を確保する。
- ※集成材は、集成: E120-F330 (米松)、E105-F300 (赤松) とする。
- 集成材は全て対称異等級材、柱材は全て同一等級材とする。
- ※仕物金物及び釘は、Zマーク又は同等品金物使用可 とする。
- 部材仕様は、無等級材を使用とする。(集成材を除く。)
- ※使用する集成材については、JAS適合品を使用とする。
- ※使用する鋼材については、施行令41条に適合する材料を使用とする。
- ※防炭処理等は構造上主要軸部分について地盤面から1.0m以下で施工する。

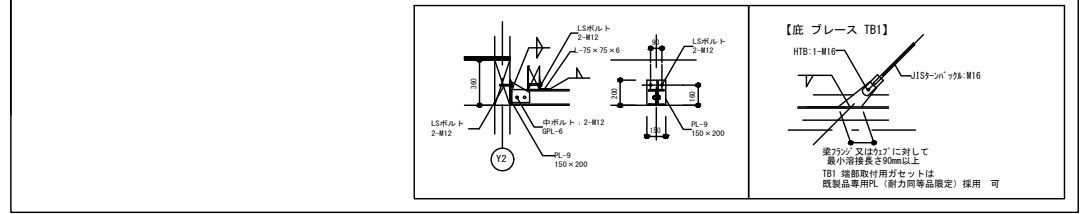
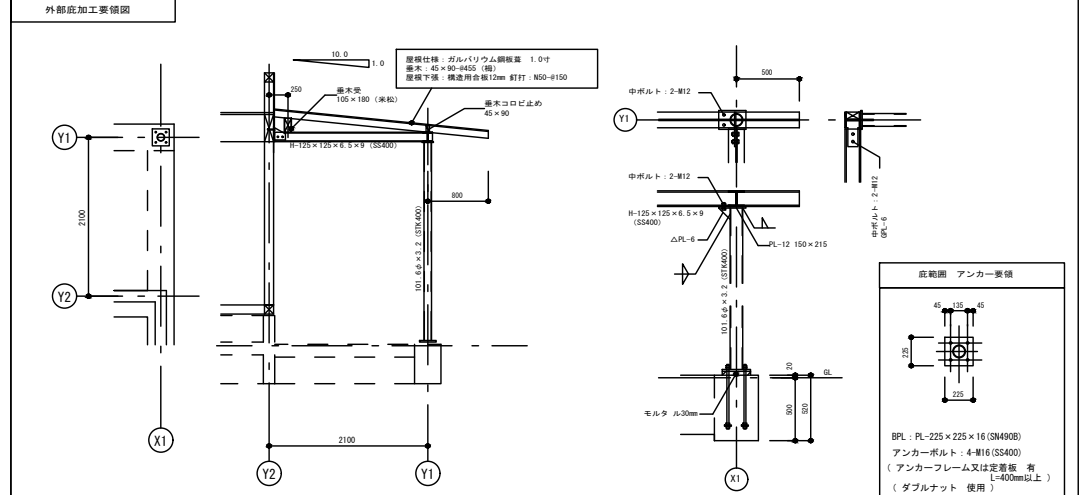
⇒柱及び梁の材質変更は、削げ・せん断・めり込み・ヤング係数等が設計採用仕様を上回ることを確認し、工事監理者が承認した場合は施工材料の変更を可能とする。

材質変更をした場合は、工事監理者が変更後の強度耐力比較表等を作成し審査機関等に対して「軽微報告」の提出を行う。

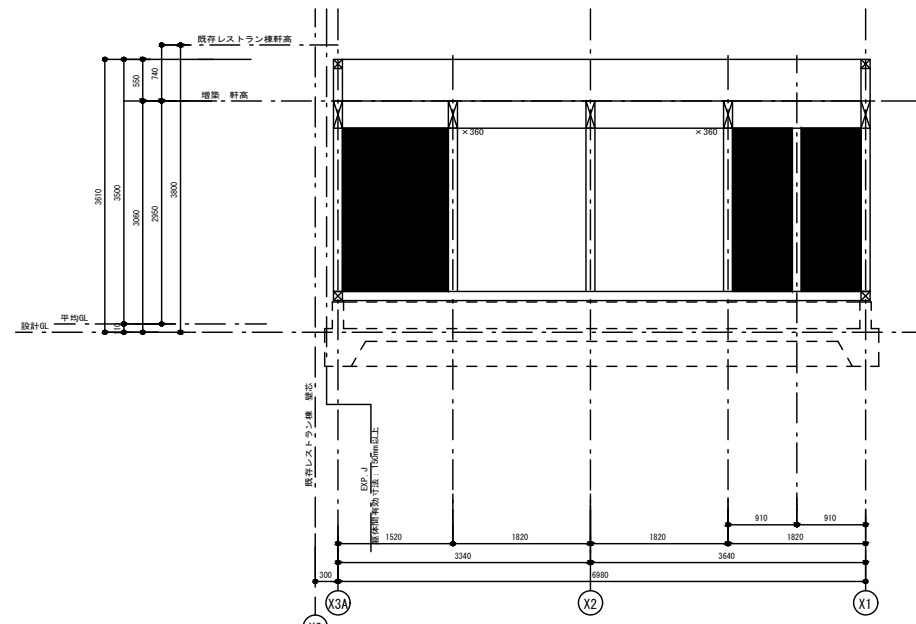
設計採用仕様を下回る変更を計画する場合は、対象部材を含め構造の再検討を実施して、設計計画等の確認を行い審査機関等に対して「計画変更」の申請を行う。

⇒梁・梁及び柱・梁 接合部に認定メーカーの金物工法を採用する場合は梁サイズ、材質に対応したメーカー仕様の専用金物耐力以下を工事監理者が確認の上承認した場合は、金物工法の採用を可能とする。

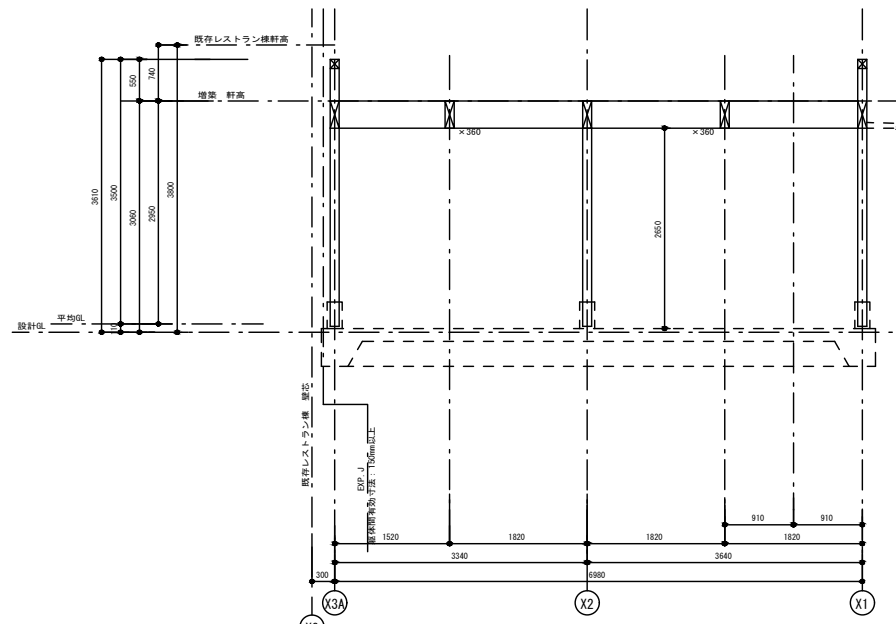
採用する場合は、変更後の金物耐力比較表又はメーカー仕様を審査機関に対して、工事監理者は軽微報告の提出を行う。



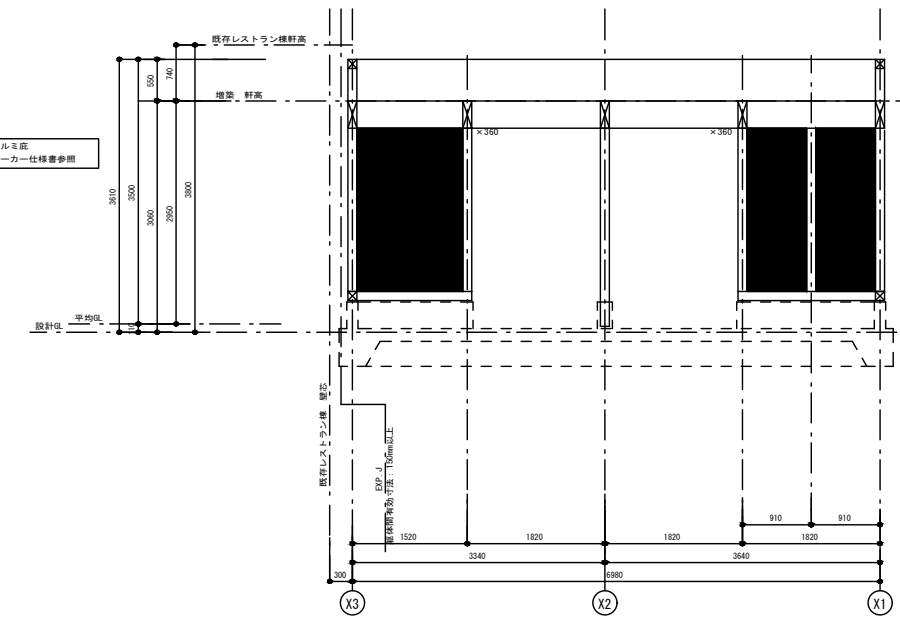
道の駅発祥の里こうざき新発祥市場棟新築工事			
工事種目	レストラン棟増改築等工事		
図面種別	レストラン棟 1階壁仕様・金物配置図		
図面番号	S-09		
縮尺	図示	内容表示	
令和8年度			
設計者	神崎町役場まちづくり課		



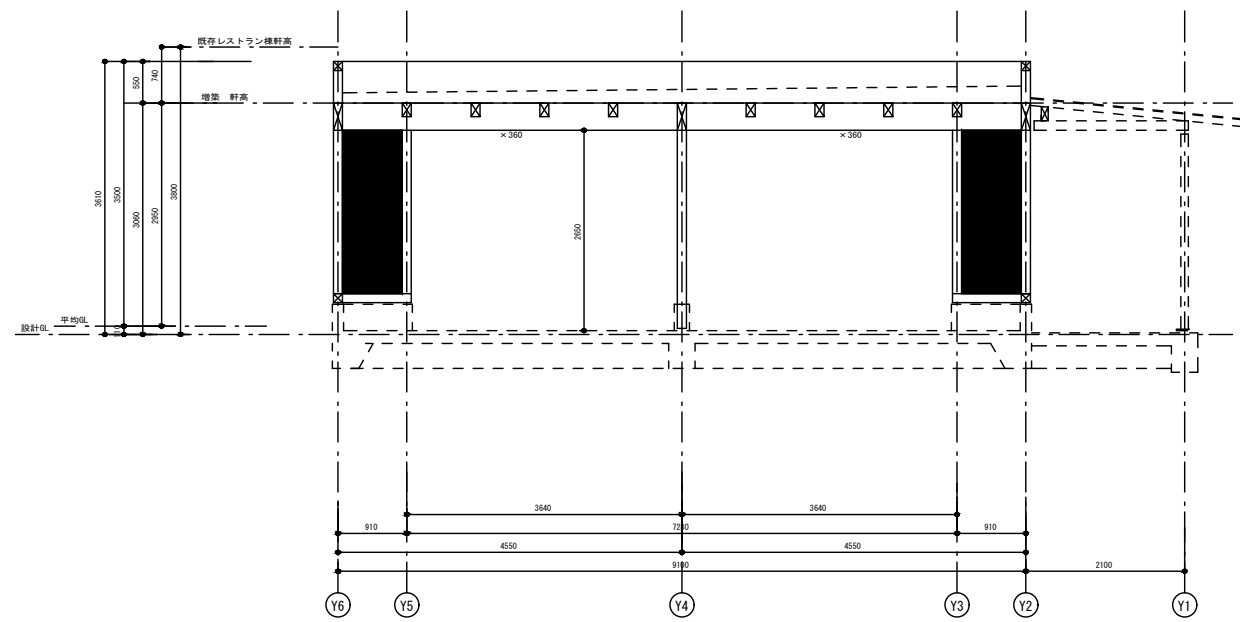
Y6通り 軸組図 S = 1/50



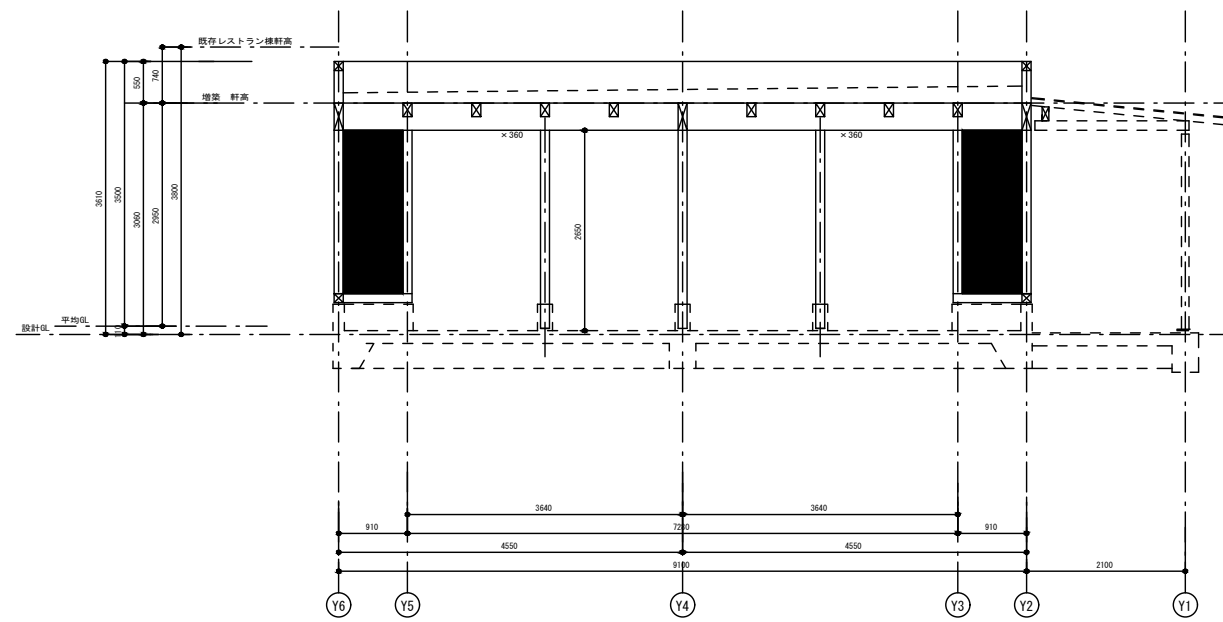
Y4通り 軸組図 S = 1/50



Y2通り 軸組図 S = 1/50



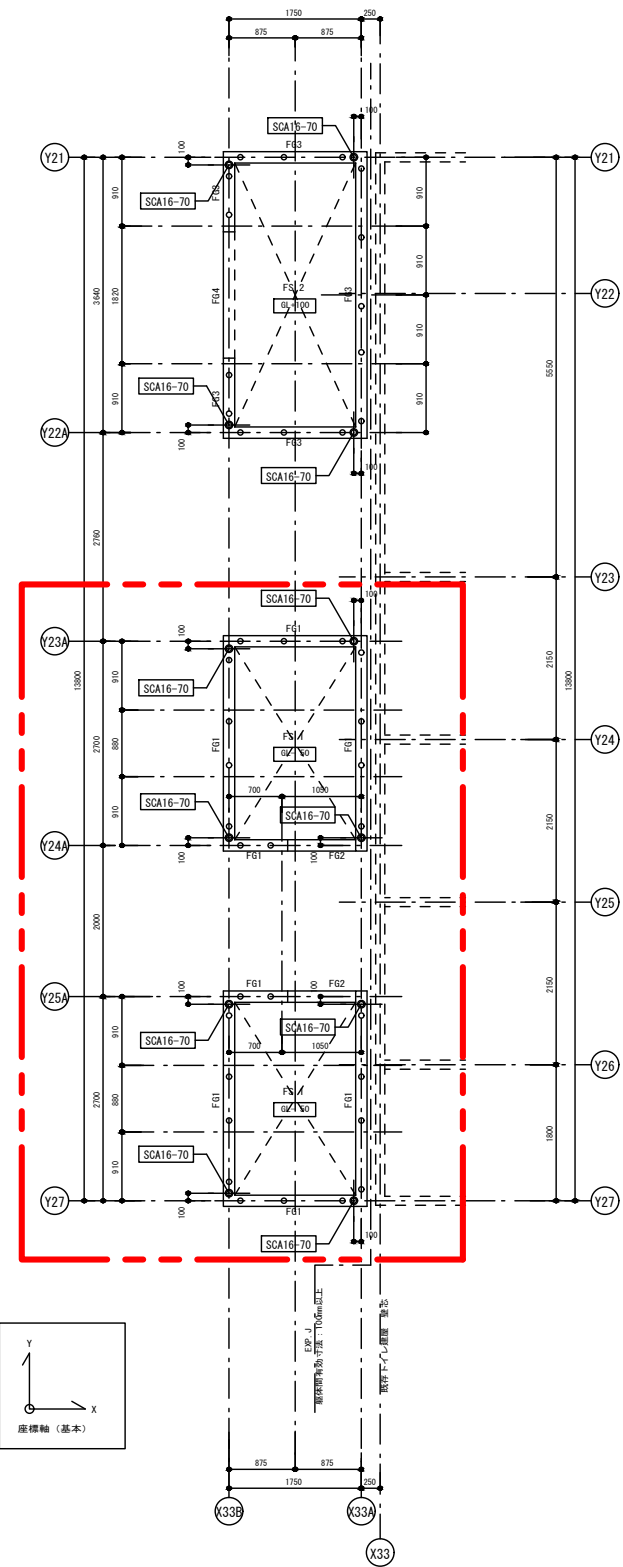
X3A通り 軸組図 S = 1/50



X1通り 軸組図 S = 1/50

壁仕様一覧				
採用記号	壁仕様	壁仕様内訳	備考	
◎	2.5倍	構造用合板 2級 9.0mm 片面施工	外層 N50-#150 中塗り N50-#150	表1100号第一、三号
◎	2.0倍	45×90(片掛け)端部金物:柱施工筋かい金物II等(同等品可)		46条4種
◎	2.5/1.5倍	45×90(片掛け)端部金物:柱施工筋かい金物II等(同等品可)		46条5種
◎	4.0倍	45×90(片掛け)端部金物:柱施工筋かい金物II等(同等品可)		46条4種
◎	5.0倍	構造用合板 2級 9.0mm 両面施工	外層 N50-#150 中塗り N50-#150	表1100号第一、三号
◎	5.0/4.0倍	2.5倍 + 2.5/1.5倍 の組合せ	【 】 数値は、46条検計用壁仕様とする。	46条4種
◎	6.5倍	2.5倍 + 4.0倍 の組合せ	【 】 数値は、46条検計用壁仕様とする。	46条4種

道の駅発酵の里こうざき新発酵市場棟増改築等工事			
工事種目	レストラン棟増改築等工事		
図面種別	レストラン棟 軸組図		
図面番号	S-10		
縮尺	1/50	内容表示	
令和8年度			
設計者	神崎町役場まちづくり課		



基礎伏図 S = 1/50

特記なき基礎スラブは全て FS1 とする。  
 特記なき外周部基礎梁は全て FG1 とする。  
 特記なき内部基礎梁は全て FG2 とする。

表示レベル凡例  
 + 構造面  
 - 完成面

### 基礎伏図 共通事項

**共通事項**  
 特記なき限り構造詳細部は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算基準・同解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 (2018) 鉄筋コンクリート工事」・「鉄筋コンクリート造配筋指針」による。  
 (混和剤及び使用骨材についてコンクリートプラント決定後に報告とする。)  
 ※混和剤及び使用骨材はJIS規格品をJASS5に準ずる仕様とし、上記の設計強度を確保可能な配合を工事監理者の指示により行う。

**一般事項** ※調査管理強度  $F_m$  は JASS5 (2018) より  $F_q + mS_n$  を考慮して算出とする。  
 使用材料 コンクリート : 設計基準強度  $F_c = 24 \text{ N/mm}^2$   
 品質基準強度  $F_q = 24 \text{ N/mm}^2$   
 スラック : 18 cm  
 水セメント比 最大値 : 55 %以下  
 単位体積重量 最小値 : 270 kg/m<sup>3</sup>  
 鉄筋 : SD295A (D10~D16) ... 採用なし  
 SD345 (D19以上) ... 採用なし

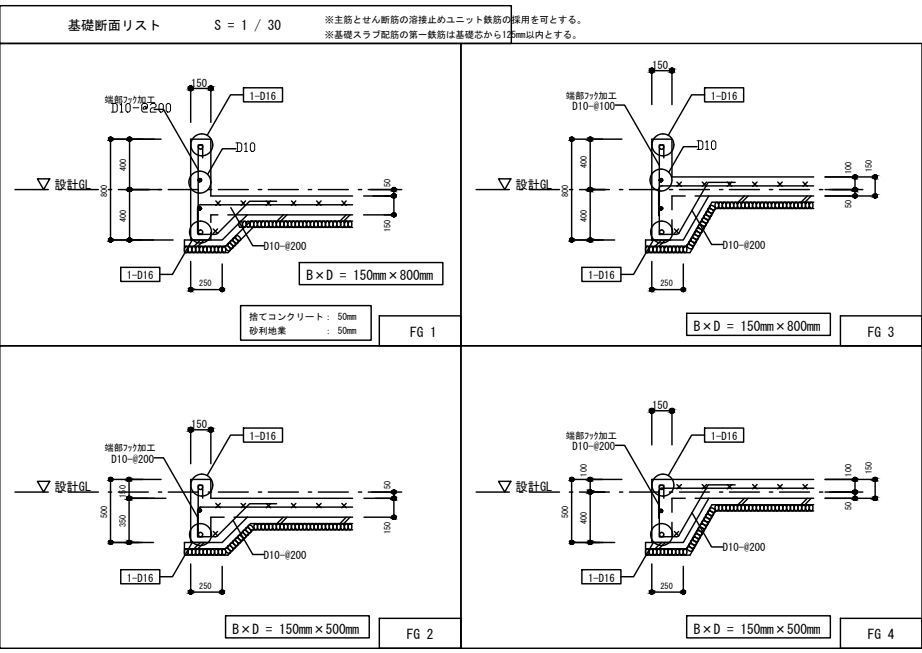
基礎形式 : ベタ基礎 (地盤補強改良計画【有】・無・未定)  
 設計長期地耐力 :  $f_e = 30.0 \text{ kN/m}^2$  (基礎下端 : GL - 0.40m, 0.05, 0.20m)  
 支持層 : 粘性土層 (基礎下端)  
 ※計画範囲の地盤調査報告書から、地盤改良 (D-BOX工法) を採用して設計長期地耐力を確保とする。  
 工事監理者は、地盤改良検査書及び地盤改良計画書を確認する。  
 その他現場状況で基礎条件の確保が困難な状況が生じた場合は地盤補強の再検討を行い審査機関等に対して、軽微報告又は計画変更等の手続きを遅延なく実施とする。

○ アンカーボルト M12 (FCA II-40) 又は M12 (UHA-40) (同等品の使用は可とする)  
 ⊙ ホールダウンアンカー M16 (SCA16-70 又は CA16-80) (同等品の使用は可とする)  
 特殊ホールダウンアンカー PZ-FA16-93 を示す。  
 ■ 部分は無筋立上りを示す。  
 床下換気口 (内部) : 採用なし  
 350 (0) × 450 (0) → 500 (0) を示す。

基礎-土台架設用アンカーボルトについて  
 ・アンカーボルト配置は「2.0m以内」とする。  
 ・耐力壁間距離位置の「150mm内外」に配置する。  
 ・土台継手相互端部に配置する。  
 ・土台端部に配置する。  
 ・構造計算により応力伝達に必要な本数を配置する。

一般又は採用アンカーボルトの仕様及び基礎埋込長制限  
 A-40 (M12 Zマーク) → 250mm以上  
 A-70 (M16 Zマーク) → 360mm以上  
 A-90 (M16 Zマーク) → 510mm以上  
 コシ7ホキボルト M16 (特許) → 240mm以上  
 ショットガンボルト M16 (特許) → 280mm以上

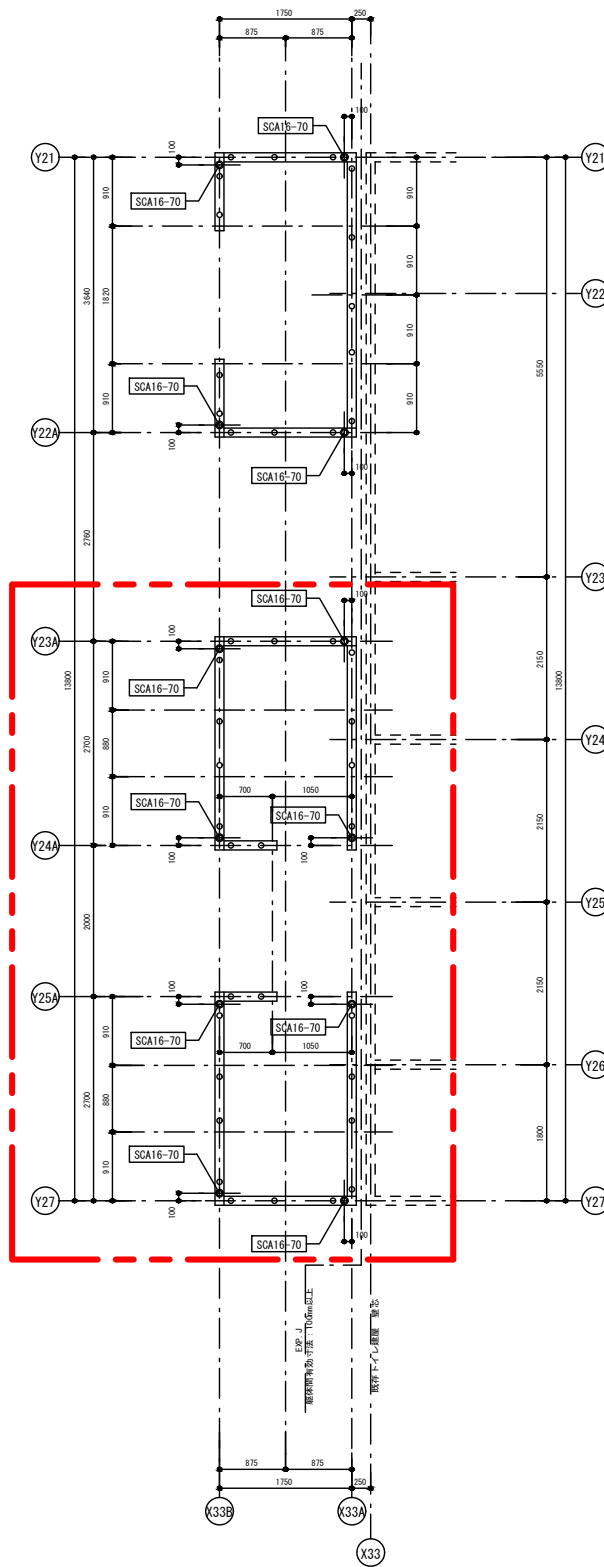
※アンカーボルト及びホールダウンアンカー設置では各メーカーの専用支持治具を必ず採用とし精度と所定の埋込長さを確保とする。



### 基礎スラブラスト

符号	厚	位置	短辺方向 (主筋)	長辺方向 (配力筋)
FS1 (耐圧スラブ)	t = 150	上筋筋	D13 - @150	D13 - @150
		下筋筋		
FS2 (耐圧スラブ)	t = 150	上筋筋	D13 - @150	D13 - @150
		下筋筋		

※基礎スラブ筋 (シツ) 配筋は、短辺方向配筋を主筋 (上段に配筋) とする。  
 ※基礎スラブ筋 (シツ) 配筋は、短辺方向配筋を主筋 (外側に配筋) とする。  
 ※かぶり厚及び折曲加工、定着については、鉄筋コンクリート造配筋指針に準ずる。  
 ※工事監理者が適切なかぶり厚を十分に管理出来る場合は、指てコンクリート地盤施工のみを省略可能な対象とする。  
 但し、変更申請又は報告等は審査機関等に対して事前に行うこと。



土台伏図 S = 1/50

### 土台伏図 共通事項

— 土台 : 105 × 105 (相 防腐処理材)  
 — 大引 : 105 × 105 (相 防腐処理材)  
 ◇ 床板板 90 × 90 (相 防腐加工材) (合板受根太: 大引溝込み + M16 又は 金物止めとする。)  
 × 東位置 (全て鋼製束 又は プラ束) を示す。  
 △ 大引受金物を示す。

○ アンカーボルト M12 (FCA II-40) 又は M12 (UHA-40) (同等品の使用は可とする)  
 ⊙ ホールダウンアンカー M16 (SCA16-70 又は CA16-80) (同等品の使用は可とする)  
 特殊ホールダウンアンカー PZ-FA16-93 を示す。

△ 土台継手位置を示す。  
 監理者がプレカット図を確認して現場指示する。  
 礎側 礎側 礎側のいずれか又は双方にアンカー設置する。

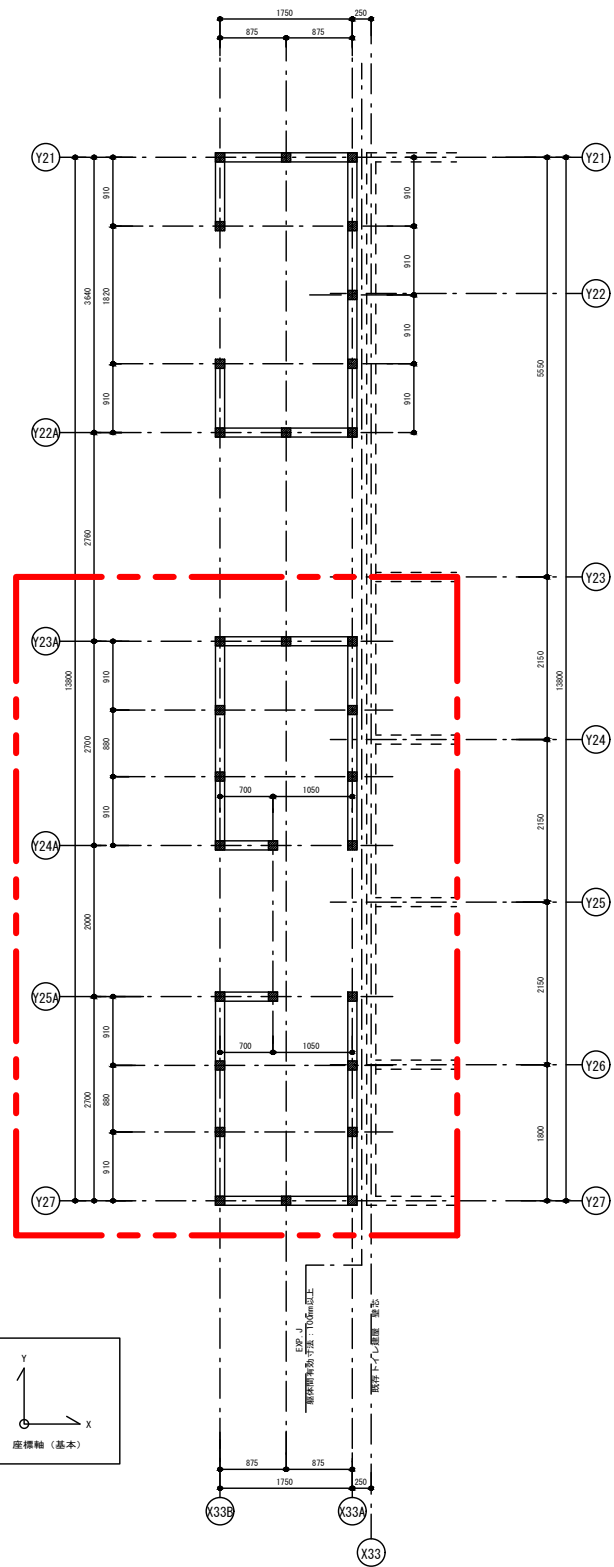
一般又は採用アンカーボルトの仕様及び基礎埋込長制限  
 A-40 (M12 Zマーク) → 250mm以上  
 A-70 (M16 Zマーク) → 360mm以上  
 A-90 (M16 Zマーク) → 510mm以上  
 コシ7ホキボルト M16 (特許) → 240mm以上  
 ショットガンボルト M16 (特許) → 280mm以上  
 高耐久ショットガンボルト M16 (特許) → 300mm以上 (PZ-FA16-93)

基礎-土台架設用アンカーボルトについて  
 ・アンカーボルト配置は「2.0m以内」とする。  
 ・耐力壁間距離位置の「150mm内外」に配置する。  
 ・土台継手相互端部に配置する。  
 ・土台端部に配置する。  
 ・構造計算により応力伝達に必要な本数を配置する。

□ ⇒ 脚部土台プレートII取付【105】 6箇所

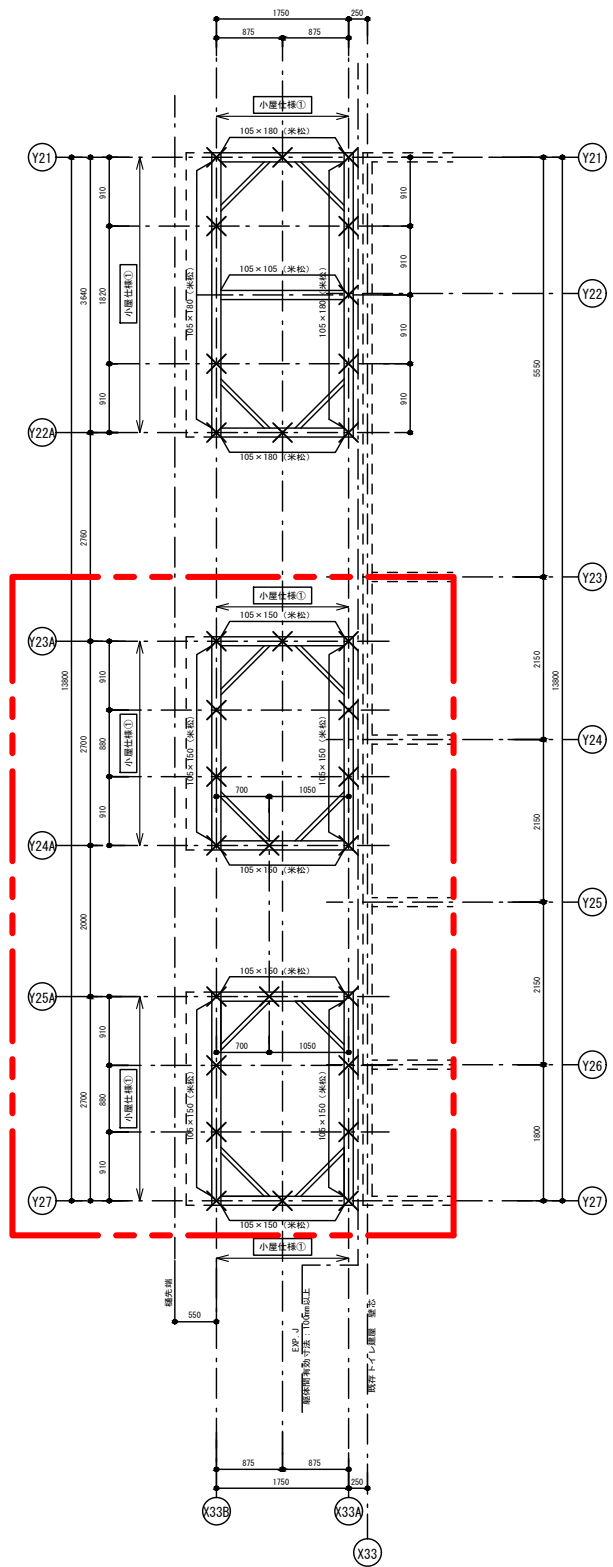
工事対象部分

道の駅発祥の里こうざき新発祥市場棟新築工事	
工事種目	レストラン増設改築等工事
図面種別	トイレ・物販棟
図面番号	基礎伏図、基礎部材リスト、土台伏図
縮尺	1/50 内容表示
令和8年度	
設計者	神崎町役場まちづくり課

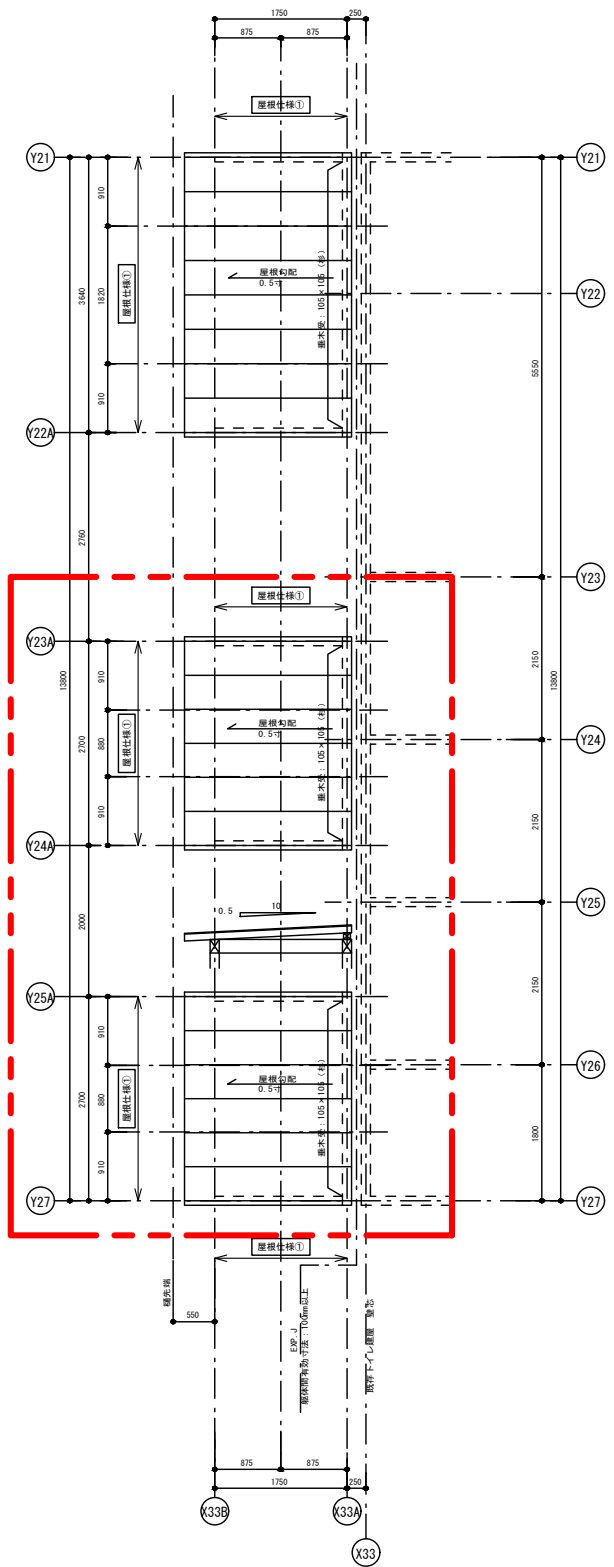


1階床伏図 S = 1/50

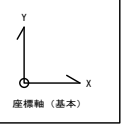
1階計画 設計考慮積載荷重  
L.L (事務) 2900 - 1800 - 800 N/m<sup>2</sup>



小屋伏図 S = 1/50



屋根伏図 S = 1/50



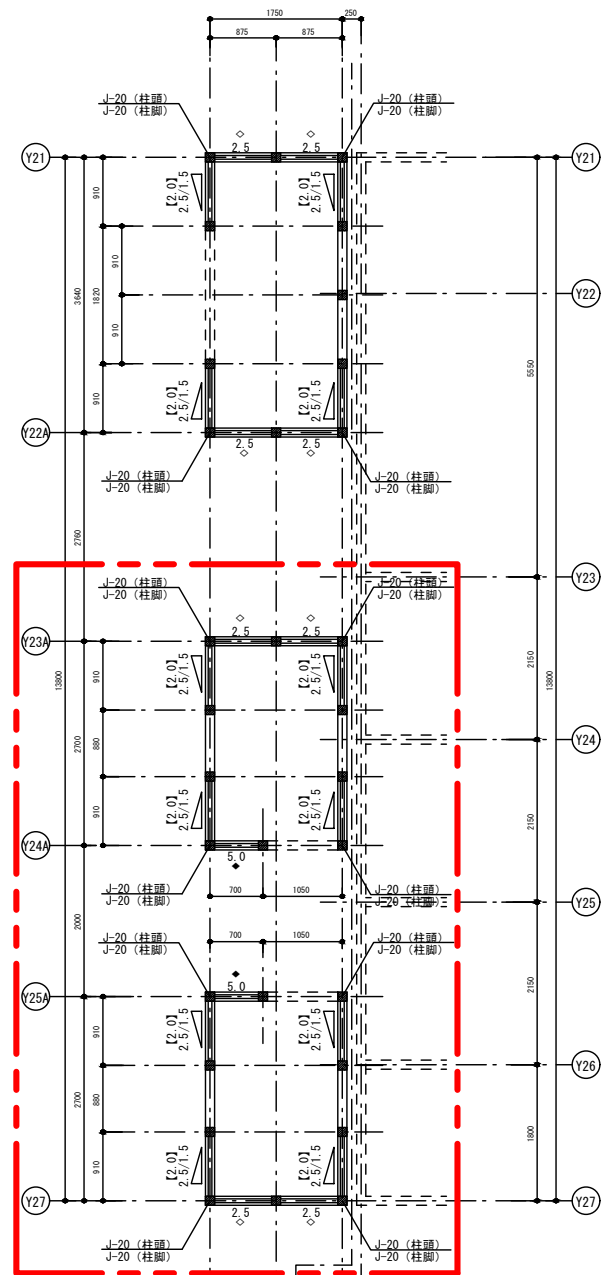
※柱位置表示が意匠図と異なる場合は、構造図を優先とする。

1階床伏図 共通事項	
特記なき 1階柱	■ : 外周部 105 × 105 (杉材 無等級) ■ : 内部 105 × 105 (杉材 無等級) (柱ほぞ寸法 30mm × 90mm以下)
土台	— : 105 × 105 (桧 防腐処理材)
大引	— : 105 × 105 (桧 防腐処理材)
床板	— : 床板は、全て調湿率 0.25以上の材料を使用する。
床下	※土台と大引レベルが同一の為、火打材を省略可能とする。 ※地盤面から1.0m範囲の構造部材(合板を含む)において防腐・防腐処理を行う事とする。

小屋伏図 共通事項	
垂木 (コロ止めなし)	: 45 × 90 - #455 (杉 KD)
小梁	: 105 × 105 (杉 KD)
母屋	: 105 × 105 (赤松 KD)
棟木	: 105 × 105 (赤松 KD)
特記なき外周部 梁・脚差	: 105 × 105 (米 松)
特記なき内部 梁・脚差	: 105 × 105 (米 松)
◇	: 90 × 90 - #910以下 (桧 KD) (合板受根太: 大入落込み + 2-N75 又は 金物止め とする。)
外周構架材端部接合方法 (各層共通: T=15.9 kN)	① 種掛付継ぎ+短冊金物×2箇所 (継手) ② 大入れ継ぎ+羽子板材×2箇所 (仕口) ③ 大入れ継ぎ+短冊金物×2箇所 (仕口)のいずれかとする。
特記なき限り材料仕様は下記による。	
※構造用 製材	→ 全て無等級材
※梁 集成材①	→ 対称異等級: E120-F330 (米松集成) ... 採用なし
集成材②	→ 対称異等級: E105-F300 (赤松集成) ... 採用なし
特殊集成	→ LVL 140E (90B 55V-47H 以上) ... 採用なし
※柱 集成材	→ 1階 管柱 同一等級: E95-F315 (桧 集成)
※プレカット工において、設計採用した材種より基礎強度及びその他の性能が下回らないことを工事監督者が確認し承認した場合は、材種変更を可能とする。但し、審査機関に対して「経機報告」を適宜実施する。	
屋根仕様① (∠θ = 1.37kN/m 屋根勾配30°以下)	構造用合板12.0mm合板 (川字釘打) N50-#150 垂木・母屋は2-N75 (斜釘打ち) (∠θ = 1.37kN/m)
小屋仕様① (∠θ = 1.18kN/m)	火打ち材 2.50m以下配座 (∠θ = 1.18kN/m) 周辺梁: 105mm × 150mm以上 (∠θ = 1.18kN/m)
小屋仕様② (∠θ = 0.71kN/m)	火打ち材 3.75m以下配座 (∠θ = 0.71kN/m) 周辺梁: 105mm × 150mm以上 (∠θ = 0.71kN/m)
屋根勾配	: 0.5 寸

工事対象部分

道の駅発酵の里こうざき新発酵市場棟新築工事	
工事種目	レストラン棟増改築等工事
図面種別	トイレ・物販棟 1階床伏図、小屋伏図、屋根伏図
図面番号	S-12
縮尺	1/50 内容表示
令和8年度	
設計者	神崎町役場まちづくり課



1階 壁仕様・金物配置伏図 S = 1/50

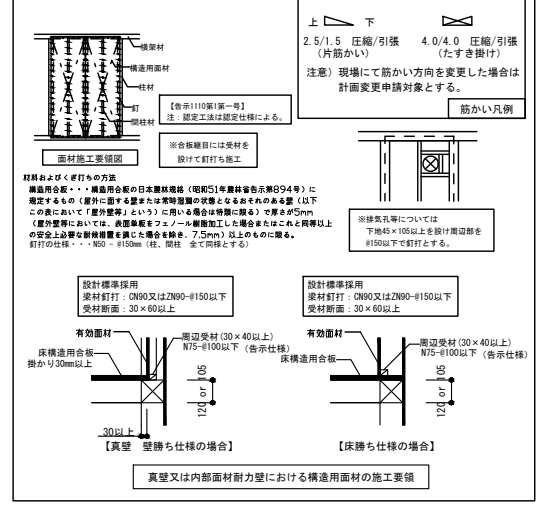
【1階 柱脚部 及び 柱頭部】

※柱位置表示が意匠図と異なる場合は構造図を優先とする。

■	特記なき 1階 外部柱 : 105 × 105 材種: 杉 無等級
■	特記なき 1階 内部柱 : 105 × 105 材種: 杉 無等級
1階 階高寸法: H = 1800 mm ( 根拠材間寸法: h = 1695 mm )	
1 階	H / Lo(910) = 1.98 < 3.5 (筋交) 、 5.0 (面材) . . . 可
1 階	H / Lo(700) = 2.58 < 5.0 (面材) . . . 可

各階 壁仕様・金物配置伏図 共通事項

採用記号	壁仕様	壁仕様 内容	備考
◎	2.5倍	構造用合板 2級 9.0mm 片面施工 外 用 N50-#150 中通り N50-#150	告示1100号第一、三号
◎	2.0倍	構造用合板 2級 9.0mm 片面施工 外 用 N50-#150 中通り N50-#150	告示1100号第一、三号
◎	2.5/1.5倍	45 × 90 (片側) 端部金物: 柱施工筋かい金物Ⅱ等 (同等品可)	告示1100号第一、三号
◎	4.0倍	45 × 90 (片側) 端部金物: 柱施工筋かい金物Ⅱ等 (同等品可)	告示1100号第一、三号
◎	5.0倍	構造用合板 2級 9.0mm 両面施工 外 用 N50-#150 中通り N50-#150	告示1100号第一、三号
◎	5.0/4.0倍	2.5倍 × 2.5/1.5倍 の組合せ 【】 数値は、告示1100号第一、三号	
◎	6.5倍	2.5倍 + 4.0倍 の組合せ 【】 数値は、告示1100号第一、三号	
△	2.9倍	構造用パネル ノボパン 9.0mm 大壁片面施工 外 用 N50-#100 中通り N50-#200	認定番号: FPM - 0177-1
△	3.0倍	構造用パネル ノボパン 9.0mm 大壁 床持ち 外 用 N50-#100 片面施工 中通り N50-#200	認定番号: FPM - 0242-1
△	2.6倍	構造用パネル ノボパン 9.0mm 真壁 床持ち 外 用 N50-#100 片面施工 中通り N50-#200	認定番号: FPM - 0179-1
—	非耐力壁	構造用合板(針葉樹)2級 9.0mm N50-#200 (外部のみ)	
—	壁壁・垂壁	構造用合板(針葉樹)2級 9.0mm N50-#200 (外部のみ)	



金物仕様一覧
J-10 → 短期引張耐力 10kN用 ⇒ HC 又は HS10-G 耐力同等品
J-15 → 短期引張耐力 15kN用 ⇒ <del>HC</del> MC15-G 耐力同等品
J-20 → 短期引張耐力 20kN用 ⇒ U-20 又は 耐力同等品
J-25 → 短期引張耐力 25kN用 ⇒ U-25 又は 耐力同等品
J-35 → 短期引張耐力 35kN用 ⇒ U-35 又は 耐力同等品
U-15 ~ 35: ビス止めホルダダウン Uタイプ を示す。(同等品可)
HC → n/n-3ナ、HS10-G → n/n-2スリ合板用ナ を示す。(同等品可)
J-60 → 短期引張耐力 60kN用 ⇒ 高耐力フレックステックナ60 (特注)

特記なき全ての構造材材の上下は、J-10 (同等品可) にて要結する。

1階壁部の引張金物 (J-20~35のみ) は、ホルダダウン金物以外のプレートビス止めタイプの採用は不可とする。(J-10、J-15を除く)

柱頭及び柱脚部の引張金物にプレートビス止めタイプ (J-15、J-20のみ) を採用する場合で「合板上使用の金物」を採用する場合は、取付ビスが長い場合、取付側に対して「耐材せい120mm以上」であることを確認する。(J-10を除く)

- ・使用金物は全てマーク表示金物又は5マーク、5マーク金物認定品を使用する事。床合板24~29mmに引張取付施工する場合は、各メーカーの専用金物とする。
- ・特記なき耐力壁両柱上下の接合部は J-10 同等品以上を使用する事。(透柱の中間層接合部は断面欠損が大きい為には仕様書の精査する。)
- ・ホルダダウン金物の納り高さについては、現場管理者と相談の上決定する事。
- ・併位置に引張金物を「2方向」に取付する場合は「採用不可」とする。
- ・壁柱を通柱にした場合は、伏図内金物を省略する。
- ・ホルダダウン金物用ボルトと脚部土台プレートが干渉する場合は、金物用ボルトの位置を現場調整して耐震ケーブル等で施工とする。調整位置法は、現場管理者と相談の上決定する事。

※一部上下取付金物サイズ(耐力)が異なる部位は現場施工時に注意する事。

耐力壁に使用する構造用合板 (面材) に関して「構造耐力上同等品」を工事管理者が確認可能な場合は、その他の面材に変更を可能とする。但し、同等品以外の面材仕様を採用する場合は、壁耐力に影響することから壁耐力に関わらず、再計算検討を行い 計画変更申請 の対象とする。

⇒ 面に表記された金物の耐力以上を工事管理者が確認の上で承認した場合は、認定されたメーカー工法の採用を可能とする。採用する場合は、変更後の金物耐力比較表等を工事管理者は、審査機関に対して経緯報告を行う。

使用部材一覧 在来工法構造仕様表

部位	在来仕様 ※構造図に特記なき限り下記の仕様を参照とする。	
	寸法	材種
土台	[105 × 105]、120 × 120	米松防炭・検・【 枺 】
通柱 ( 階 )	105 × 105、120 × 120	杉 無等級
通柱 ( 階 )	105 × 105、120 × 120	杉 無等級
管柱 ( 階 )	105 × 105、120 × 120	杉 無等級
管柱 ( 1階 )	[105 × 105]、120 × 120	杉 無等級
非構造柱 (透作)	105 × 105、120 × 120	杉 又は 枺 (KD)、その他
バルコニー地盤	105 × 105、120 × 120	杉 又は 枺 (KD)、その他
鋼差 桁材	[105 × 105]、120 × 120 (標準寸法=3000 ~ 6000)	米松 KD
梁 桁材	105、120 × 成 集成材①又は② (標準寸法=3000 ~ 6000)	米松 集成材① E120 - F330 赤松 集成材② E105 - F300 特殊 集成材 LVL 140B 特級 . . . 採用なし
小屋梁 (重木受)	[ 105 × 105 ]、90 × 90	【 杉 (KD) 】、枺 (KD)
母屋	105 × 105、90 × 90	米松 (KD) ・ 枺 (KD)
棟木 (立上頂部)	105 × 105、90 × 90	米松 (KD) ・ 枺 (KD)
隅木	105 × 105、90 × 90	米松 (KD) ・ 枺 (KD)
火打土台 (採用なし)	鋼製金物 (H8) 又は 90 × 90	鋼製 又は 枺 (KD)
火打材 (小版)	【鋼製金物 (H8) 又は 90 × 90】	鋼製 又は 枺 (KD)
屋根垂木	45 × 90 0.5寸 = #455以下 45 × 60 寸 = #455以下	【 杉 (KD) 】、枺 (KD)
破風板・鼻隠下地	30 × 105 以上	杉 又は 枺 (KD)
中間間柱 (柱中透立)	[30 又は 45] × [105]、120 標準=3000 真壁は45 × 60	杉 又は 枺 (KD)
閉柱受材	45 × [105]、120	杉 又は 枺 (KD)
受材 (閉つなぎ)	60 × [105]、120 以上	杉 又は 枺 (KD)
窓筋かい材	15 × 90 小断面現場施工	杉 又は 枺 (KD)
大引 (採用なし)	90 × 90 (端部専用金物止め)	枺材 (防炭加工材)
大引梁 (採用なし)	鋼製梁 又は プラ束	鋼製 又は プラ既製品
野縁 野縁受 吊木	40 × 30 以上	材種指定なし
筋交い (内部壁)	45 × 90 以上 (標準=3000)	杉 又は 枺 (KD)
筋交い (外部壁)	45 × 90 以上 (標準=3000)	杉 又は 枺 (KD)
筋交い (内部壁)	90 × 90 【 採用なし 】	杉 又は 枺 (KD)
根太材 (階床)	105 × 105、90 × 90 - #910以下	枺 (KD)
根太材 (階床)	105 × 105、90 × 90 - #910以下	枺 (KD)

⇒ 梁・梁 及び 柱・梁 接合に認定メーカーの金物工法を採用する場合は 梁サイズ、材種に対応したメーカー仕様の専用金物耐力以下を 工事管理者が確認の上で承認した場合は、金物工法の採用を可能とする。採用する場合は、変更後の金物耐力比較表等を工事管理者は、審査機関に対して、工事管理者が経緯報告の提出を行う。

部位	在来仕様 ※構造図に特記なき限り下記の仕様を参照とする。	
	寸法	材種
壁 面材 (構造用合板)	[910 × 2730]、910 × 3030	針葉樹 特級 2級 非合板 t = 9.0mm 針葉樹 1階 2級 裏付合板 t = 12.0mm
屋根下張合板	[ 910 × 1820 ]	針葉樹 1階 2級 裏付合板 t = 12.0mm
床合板 ( 階 )	910 × 1820	針葉樹 1階 2級 裏付合板 t = 28.0mm
床合板 ( 階 )	910 × 1820	針葉樹 1階 2級 裏付合板 t = 24.0mm
土台プレート(1階脚部)	105 × 155 (Ae = 135.75cm <sup>2</sup> )	タナカ 土台プレートII (採用なし)
土台プレート(1階脚部)	120 × 170 (Ae = 177.00cm <sup>2</sup> )	タナカ 土台プレートII (採用なし)
壁 面材 (外部の部材)	910 × 2730、910 × 3030	認定番号: FPM-0690 寸法: 910 × 2730 (下) 910 × 3030 (上) (外 用) 00-N70、02-N70 (採用なし)

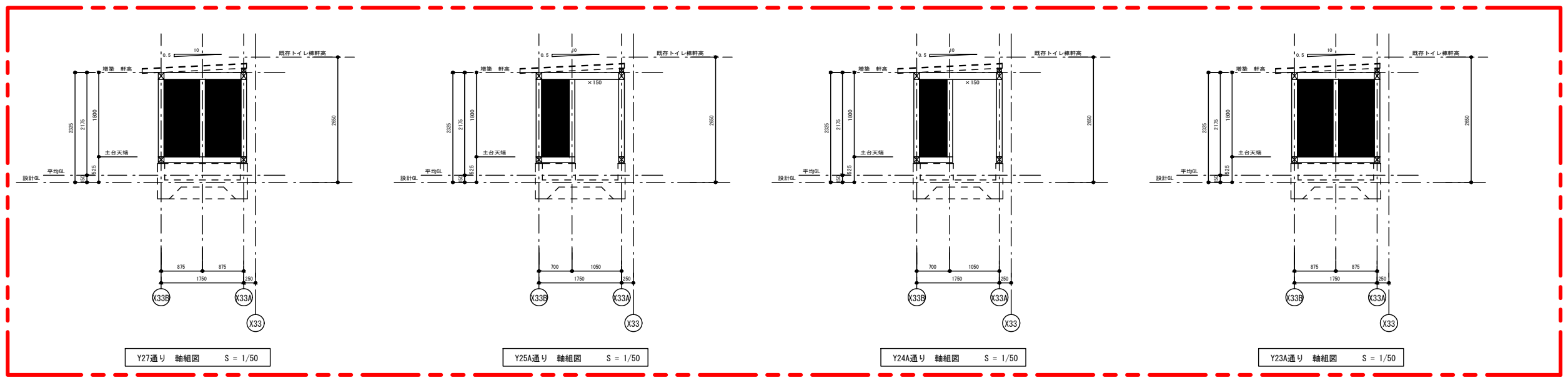
共通事項

- 梁材と床積大レベルが同一の場合は、火打材の省略可とする。
- ※ 床: 構造用合板 [12.0、15.0mm] 又は [24.0mm、28.0mm] により剛床を確保する。
- ※ 集成材は、集成材 E120-F330 (米松)、E105-F300 (赤松) とする。
- 一 梁集成材は全て対称異等級材、柱材は全て同一等級材とする。
- ※ 仕様金物及び釘は、Zマーク又は同等品金物使用可 とする。
- 部材仕様は、鋼製材を使用する。(集成材を除く。)
- ※ 使用する集成材については、JAS適合品を使用とする。
- ※ 使用する部材については、施行令41条に適合する材料を使用とする。
- ※ 防炭処理等は構造上主要軸組部分について地盤面から1.0m以下で施工する。

⇒ 柱及び梁 の材種変更は、曲げ・せん断・めり込み・ヤング係数等が 設計採用材種を上回ることを確認し、工事管理者が承認した場合は 施工材種の変更を可能とする。 材種変更をした場合は、工事管理者が変更後の強度耐力比較表を作成し 審査機関等に対して「経緯報告」の提出を行う。 設計採用材種を下回る変更を計画する場合は、対象部材を含め構造の再検討を 実施して、設計断面等の確認を行い審査機関等に対して「計画変更」の申請を行う。

道の駅発祥の里こうざき新発祥市場棟新築工事	
工事種目	レストラン棟増改築等工事
図面種別	トイレ・物販棟 1階壁仕様・金物配置伏図
図面番号	S-13
縮 尺	1/50 内容表示
令和8年度	
設 計 者	神崎町役場まちづくり課

工事対象部分

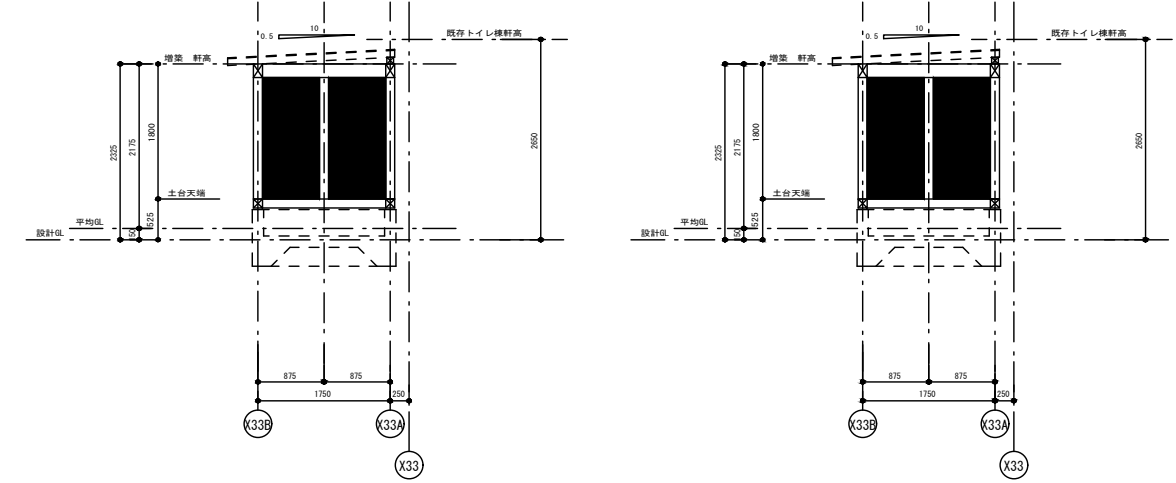


Y27通り 軸組図 S = 1/50

Y25A通り 軸組図 S = 1/50

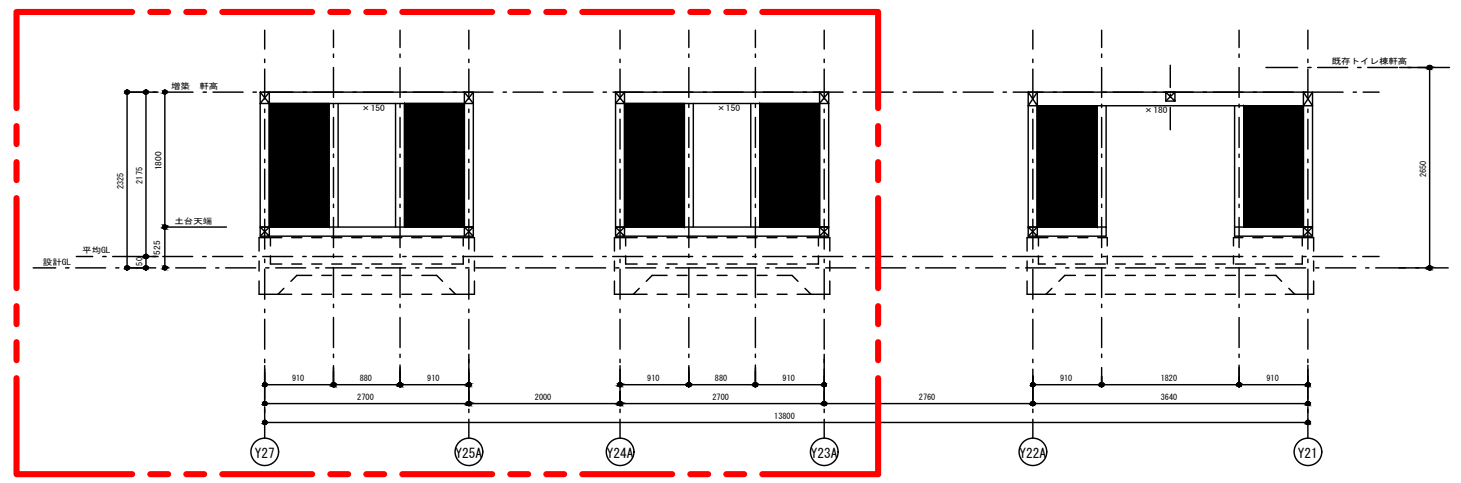
Y24A通り 軸組図 S = 1/50

Y23A通り 軸組図 S = 1/50

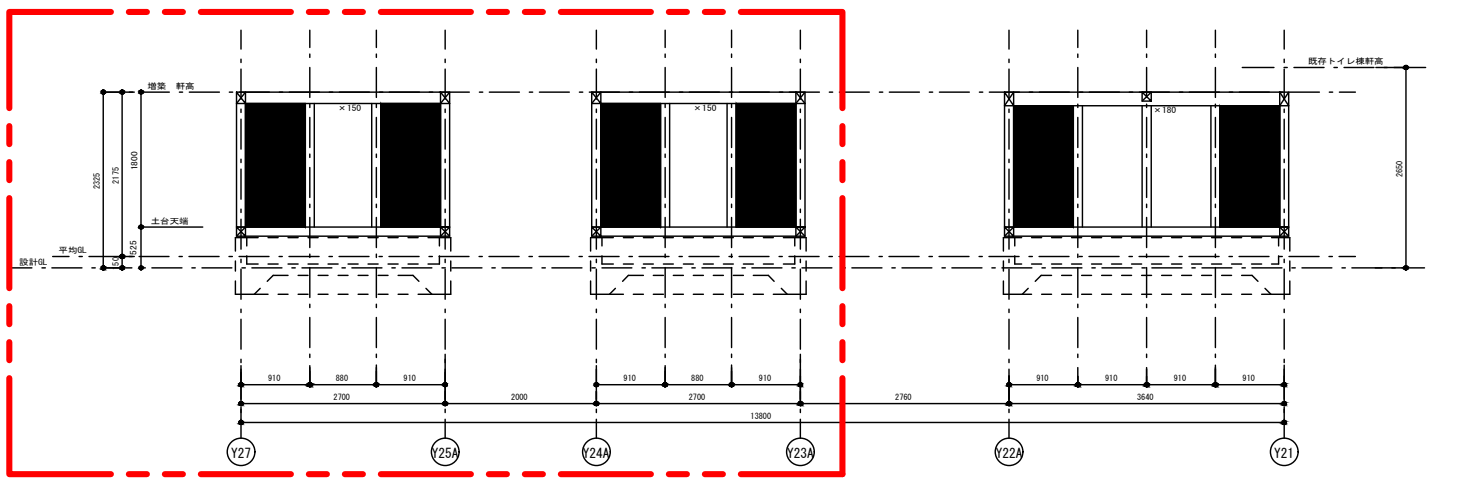


Y22A通り 軸組図 S = 1/50

Y21通り 軸組図 S = 1/50



X33B通り 軸組図 S = 1/50



X33A通り 軸組図 S = 1/50

※外壁面に使用する構造用合板は、全て特選を使用とする。  
※壁仕様の最大壁倍率等は、施行令46条様式第7(5)号、第7号の表(表)第17(1)号で詳示とする。

採用記号	壁倍率	壁仕様	内訳	備考
◎◇	2.5倍	構造用合板	2級 9.0mm 片面施工	外 層 N50-#150 中 通 N50-#150 告示1100号第一、三号
◎	2.0倍 46倍率	45×90(片掛け)	増部金物：柱施工用かい金物Ⅱ等(同等品可)	令46条4項 建設省告示1460号第一、三
◎	2.5/1.5倍 互換3/1倍	45×90(片掛け)	増部金物：柱施工用かい金物Ⅱ等(同等品可)	令46条4項 建設省告示1460号第一、三
◎	4.0倍	45×90(たすき掛け)	増部金物：柱施工用かい金物Ⅱ等(同等品可)	令46条4項 建設省告示1460号第一、三
◎◇	5.0倍	構造用合板	2級 9.0mm 両面施工	外 層 N50-#150 中 通 N50-#150 告示1100号第一、三号
◎◇	5.0/4.0倍 4/4倍	2.5倍 + 2.5/1.5倍	の組合せ 【】 数値は、令46条様式計用壁倍率とする。	
◎◇	6.5倍 (5.0倍)	2.5倍 + 4.0倍	の組合せ 【】 数値は、令46条様式計用壁倍率とする。	

工事対象部分

道の駅発酵の里こうざき新発酵市場棟新築工事	
工事種目	レストラン棟増改築等工事
図面種別	トイレ・物販棟 軸組図
図面番号	S-14
縮 尺	1/50
内容表示	
令和8年度	
設 計 者	神崎町役場まちづくり課